

# 福島市都市マスタープラン 策定懇談会 【第1回】

日時：令和8年3月26日（木）15:00～  
場所：市民センター 3階314会議室

# － 目 次 －

---

- (1) 都市マスタープランについて
- (2) 福島市の都市の状況
- (3) 市民アンケート調査の結果について
- (4) 見直しにあたって

# 都市マスタープランについて

# はじめに ～都市マスタープランとは～

## ●定義

- ・都市計画法第18条の2に基づく  
「市町村の都市計画に関する基本的な方針」として定められている。
- ・現行マスタープランは、平成29年に策定し、  
概ね20年後（令和19年）の都市の姿を展望したうえで、  
まちづくり及び都市計画の基本的な方向を定めている。

## ●計画の位置付け

市が策定する「福島市総合計画」や、県が策定する「県北都市計画区域マスタープラン」などの上位計画に即し、土地利用、交通、防災等の様々な分野の関連計画との整合を図る。

## ●計画対象区域

福島市全域

# (参考図)計画体系における都市マスタープランの位置付け

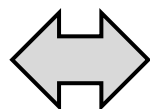
## 福島市総合計画



### 他分野別・関連計画

- ・ 中心市街地活性化基本計画
- ・ 景観形成基本計画
- ・ 地域公共交通計画
- ・ 農業振興地域整備計画
- ・ 森林整備計画
- ・ 産業未来ビジョン(工業振興計画)など

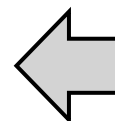
整合



## 福島市都市マスタープラン

立地適正化計画

即する



県北  
都市計画区域  
マスタープラン



## 市が定める都市計画

- ・ 地域地区
- ・ 都市施設
- ・ 市街地開発事業
- ・ 地区計画 など

# 現行の都市マスタープランの概要

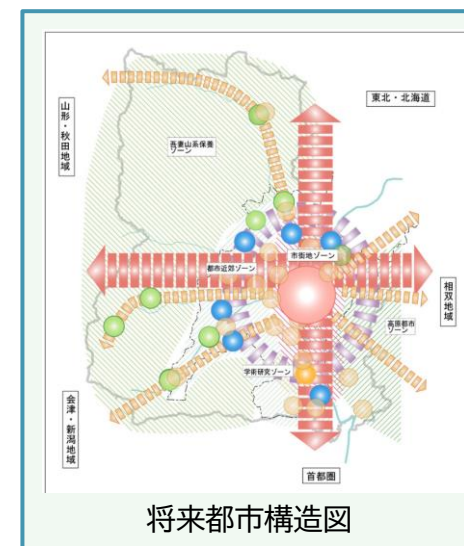
## 都市マスタープランについて

人口減少や少子高齢化社会の本格的な到来、東日本大震災などに伴う新たな課題が発生し、本市を取り巻く社会経済情勢の変化を受け、平成29年度に概ね20年後の将来都市像を展望し策定。

## 都市づくりの基本理念「みんなが誇れる県都ふくしまの創造」

### ●都市づくりの基本目標

- ① 安全で安心して住み続けられる都市
- ② 豊かな自然や歴史・文化などを生かし、地域の個性や活力を育む、市民が誇れる都市
- ③ 県都として人々が集い、にぎわい、交流する都市



## 構成

### 全体構想（都市づくりの方針）

都市づくりに関する11方針

① 土地利用に関する方針	⑤ 都市景観形成に関する方針	⑨ 住宅・住環境に関する方針
② 道路・交通に関する方針	⑥ 水と緑の環境形成に関する方針	⑩ その他の都市施設等に関する方針
③ 都市防災に関する方針	⑦ 産業振興のまちづくりに関する方針	⑪ 希望ある復興に関する方針
④ 中心市街地活性化に関する方針	⑧ 健康と福祉のまちづくりに関する方針	

### 地域別構想（地域別まちづくりの方針）

18地区（中央東・西地区及び16支所）のまちづくり方針

- (1) 地域の概況
- (2) 地域の主要課題
- (3) 地域の将来像
- (4) 地域のまちづくり方針
  - ① 土地利用の方針
  - ② 道路・交通の方針
  - ③ その他の方針



# 見直しの背景

平成29年3月

## 現都市マスタープラン 策定

市民との共創によるまちづくり

### 社会情勢の変化

人口減少  
少子高齢化

コロナ禍

自然災害  
台風・地震

### 都市構造の変化

土地利用

道路・交通

拠点配置

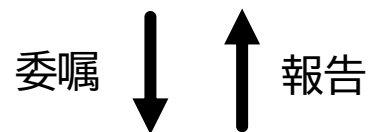
福島市総合計画改定  
(令和8年度予定)

県北都市計画区域マスタープラン改定  
(令和5年7月)

社会情勢や都市構造などの変化による様々な課題への対応と「県都ふくしま」として持続的に発展するための長期的な視点による継続的な取組みが必要なため、現都市マスタープランの見直しが必要

# 都市マスタープラン見直しの流れ

## 策定組織図



**都市マスタープラン策定懇談会**  
都市マスタープランの原案作成

### 役割

- ・専門的な知見から、計画内容の充実を図る
- ・計画の妥当性の検証
- ・長期的な視点に立った助言



### 市民

- 市民アンケート
- 地域別懇談会
  - ・地域別まちづくり方針の検討
- パブリックコメント

意見  
→  
←  
情報共有

### 福島市

- 庁内策定委員会
  - ・重要事項の方向性検討
- 策定委員会幹事会
  - ・施策評価・課題の整理

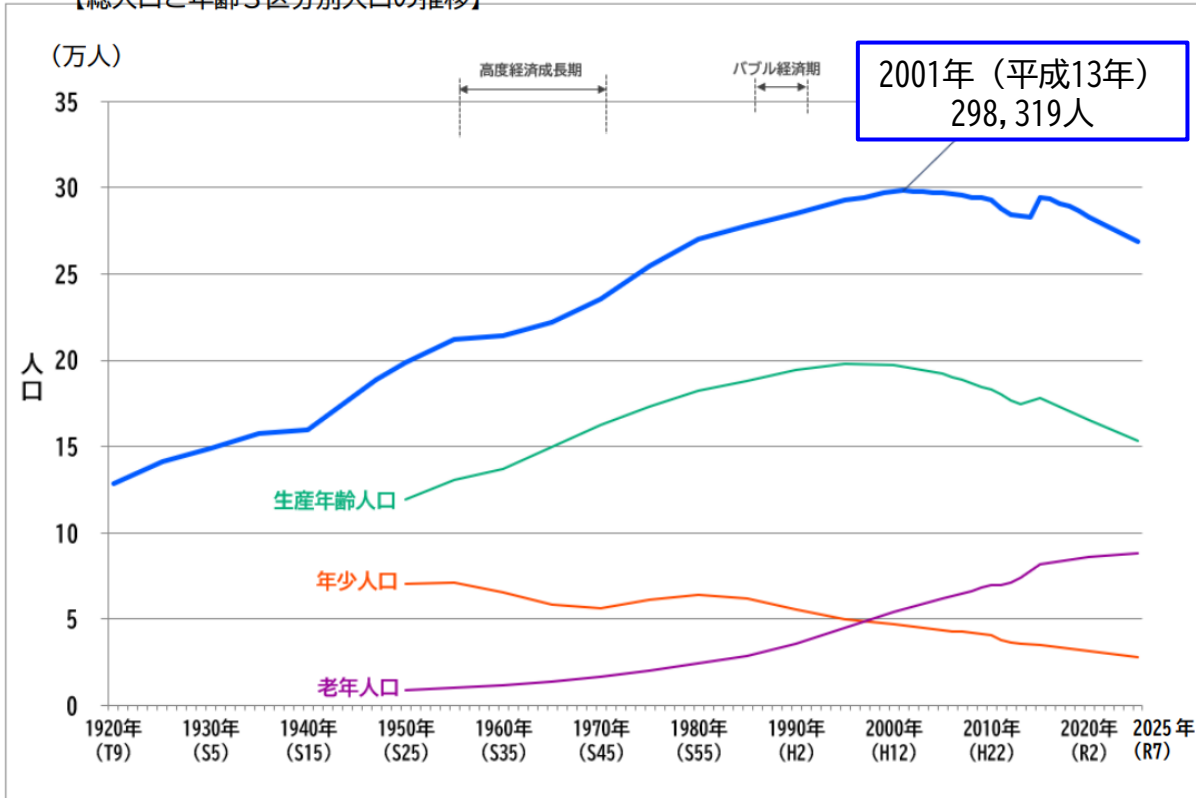
# 福島市の都市の状況

# 1.人口の状況

# 福島市の人口推移

●平成13年(2001年)まで増加傾向で推移していたが、その後減少に転じている。

【総人口と年齢3区分別人口の推移】



※総務省「国勢調査報告書」、福島市統計書、福島市推計人口より作成

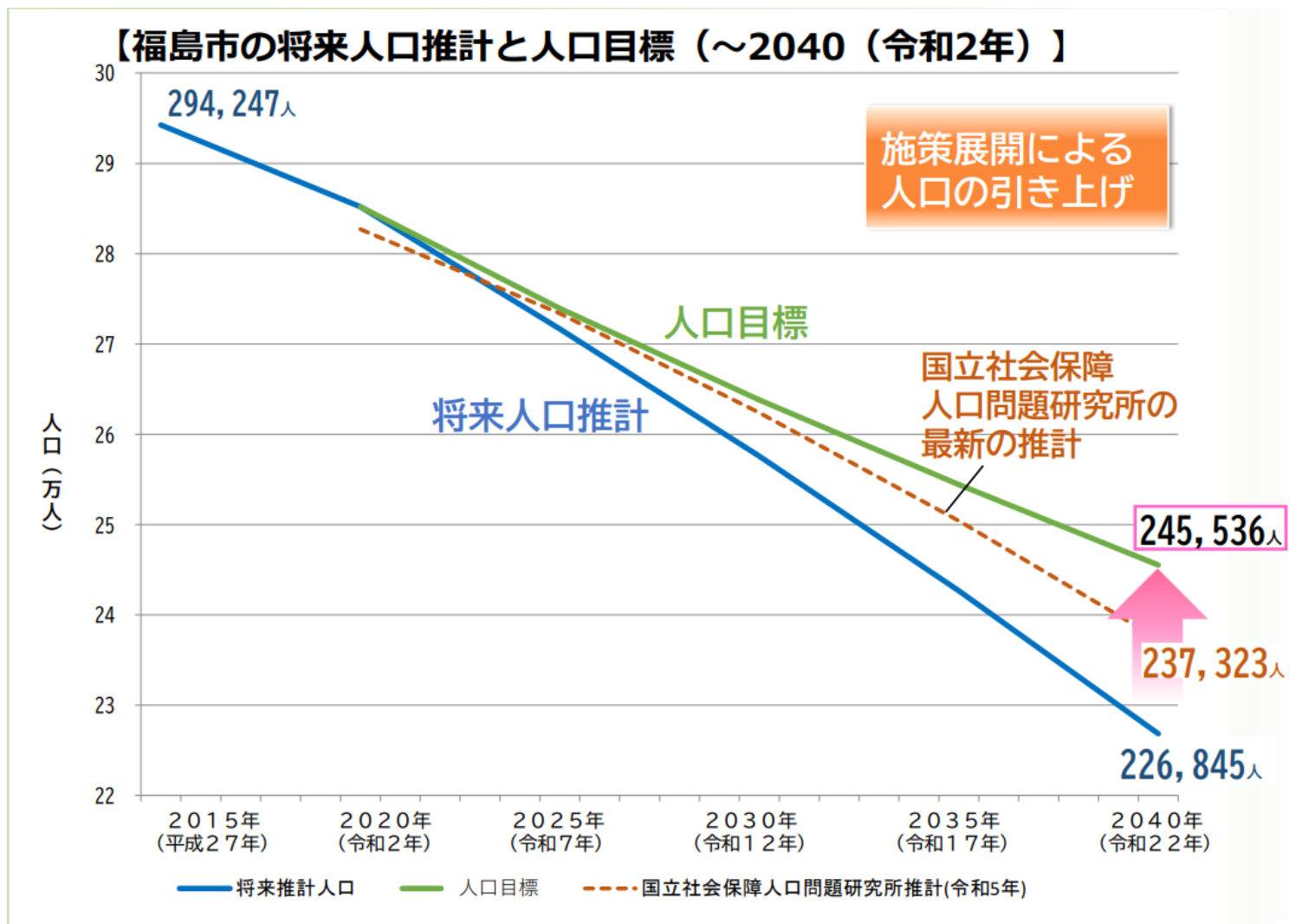
【福島市の人口の推移(各年10月1日現在)】

	推計人口	前年同月増減	参考		
			住民基本台帳人口	前年同月増減	推計と住基の差
2025年(R7)	268,865	△ 3,214	262,122	△ 3,216	6,743
2024年(R6)	272,079	△ 3,259	265,338	△ 3,285	6,741
2023年(R5)	275,338	△ 2,774	268,623	△ 2,782	6,715
2022年(R4)	278,112	△ 2,513	271,405	△ 2,499	6,707
2021年(R3)	280,625	△ 2,068	273,904	△ 2,062	6,721
2020年(R2)	282,693		275,966	△ 1,550	6,727
2019年(R元)	286,742	△ 2,250	277,516	△ 2,270	9,226
2018年(H30)	288,992	△ 2,018	279,786	△ 2,034	9,206
2017年(H29)	291,010	△ 2,171	281,820	△ 2,190	9,190
2016年(H28)	293,181	△ 1,066	284,010	△ 1,050	9,171
2015年(H27)	294,247		285,060		9,187

※推計人口：直近の国勢調査人口をもとに、住民基本台帳法による毎月の転入・転出及び出生・死亡数を集計した人口

# 将来人口の推計

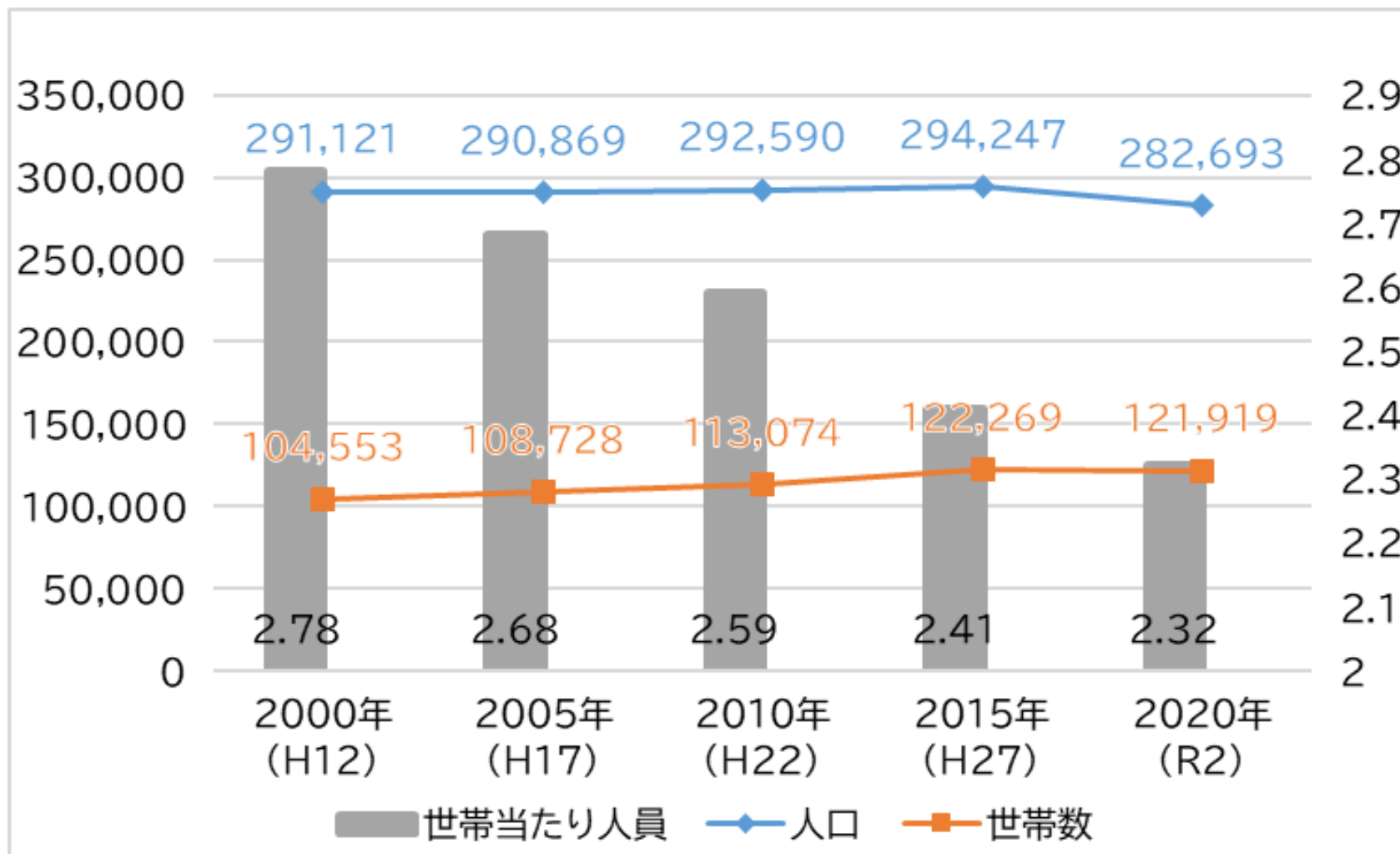
- 将来人口は、令和22年(2040年)には令和2年(2020年)時点から2割減少する推計となっている。



資料：第6次福島市総合計画まちづくり基本ビジョン 国立社会保障人口問題研究所「日本の将来人口推計(令和5年推計)」

# 世帯数・世帯当たり人員数の変遷

- 人口と世帯数は平成27年から減少傾向であり、世帯数は人口よりも減少の幅が小さい。
- 世帯あたり人口は2.78人/世帯（平成12年）から2.32人/世帯（令和2年）に減少している。

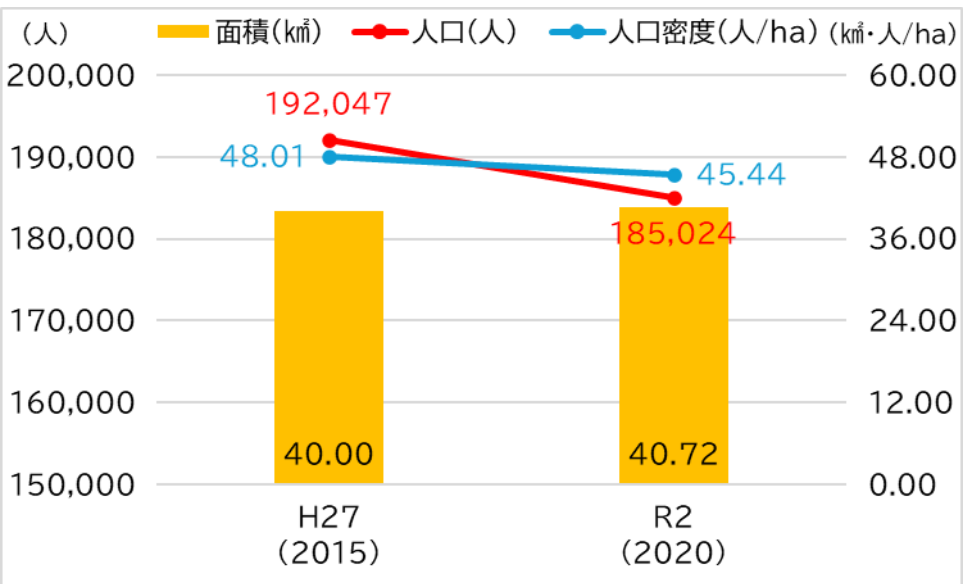


出典：国勢調査

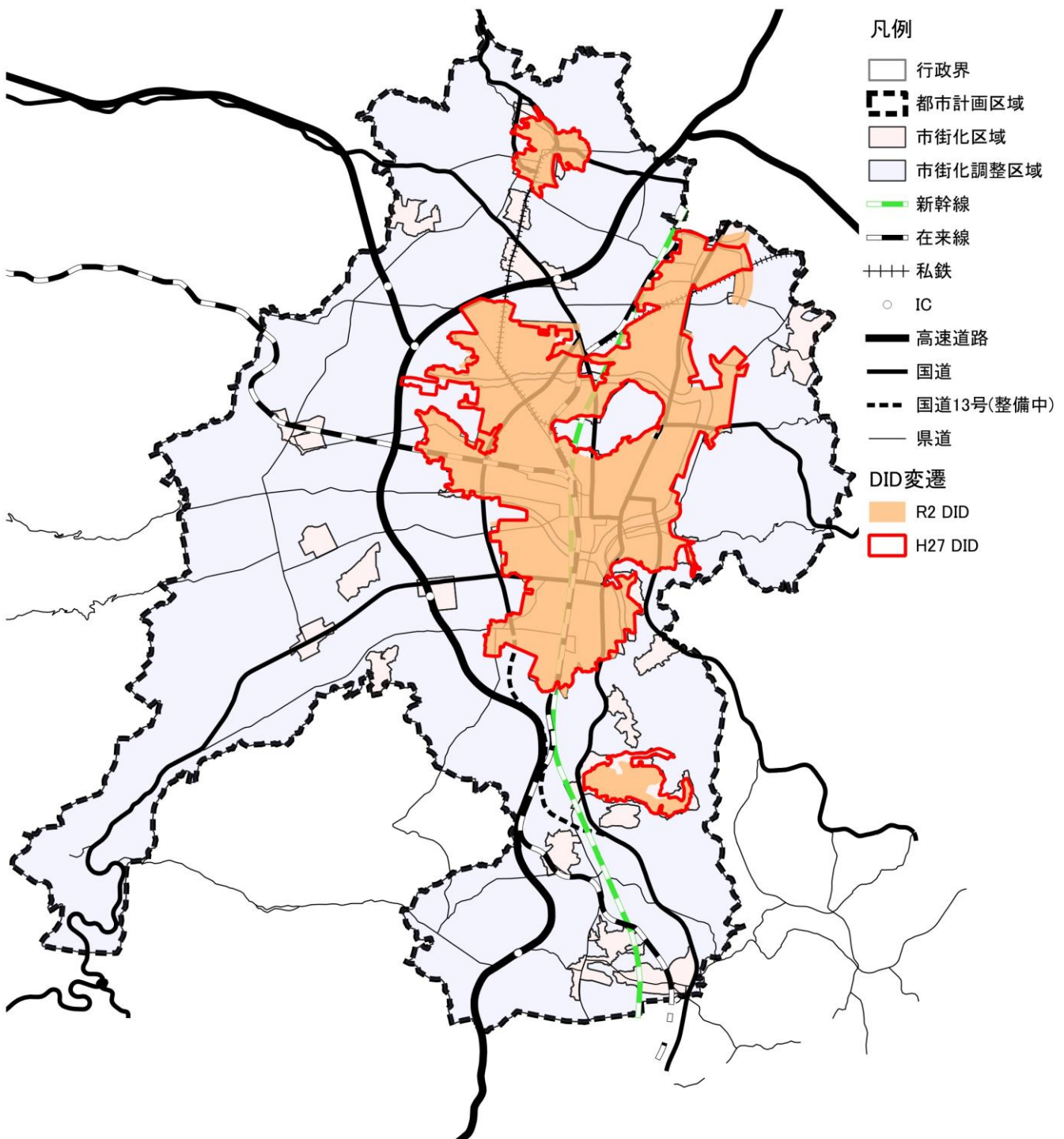
# 人口密度の変化

- 福島市のDID地区（人口集中地区※）面積は、平成27年から令和2年にかけて微増している。一方、地区内の人口は約19万人から18.5万人に減少している。
- DID地区内の人口密度は、平成27年から令和2年にかけて48.0人/haから45.4人/haに減少しており、**市全体として低密度化が進行している。**

※人口集中地区：人口密度が40人/haの地域



出典：国勢調査（DIDデータ）



## 2.土地利用の状況

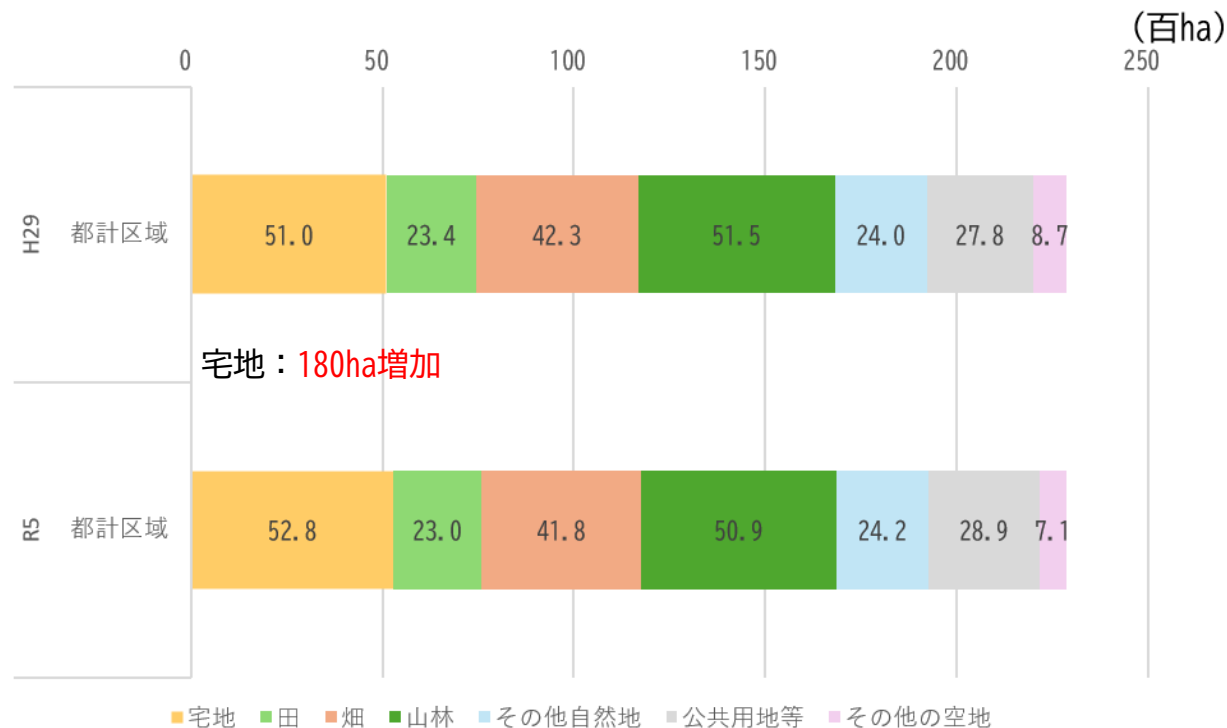
# 土地利用の現状

- 市街化区域においては、宅地が120ha増加しており、主に農地や山林、その他の空地から転換されている。また、福島おおぞらインター工業団地（35ha）は市街化調整区域の農地から市街化区域の宅地へと転換された。
- 市街化調整区域においては、宅地が60ha増加しており、農地・山林は110haが減少している。これは、主に地区計画による宅地への転換による。
- 都市計画区域全体で見ると、180ha宅地が増加している。

市街化区域・市街化調整区域の土地利用状況

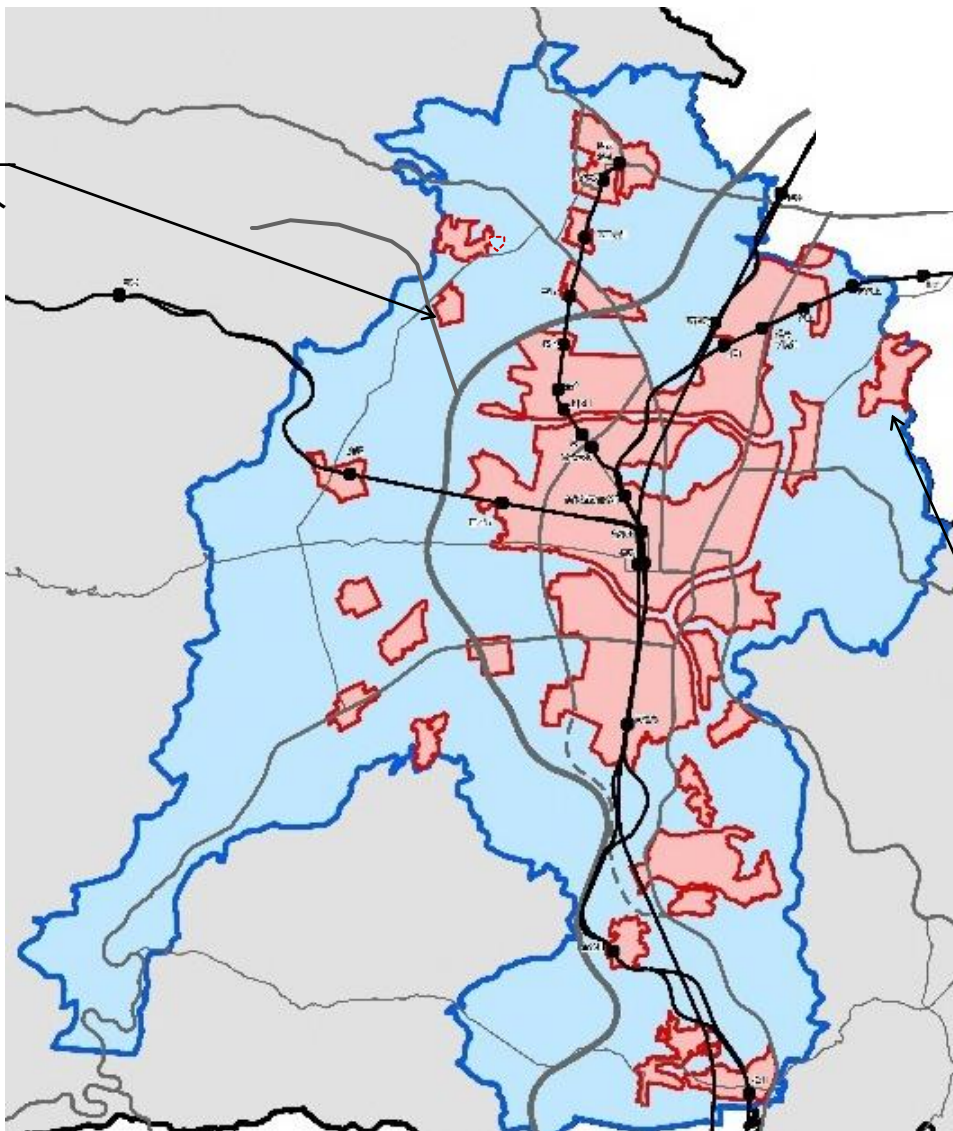


都市計画区域内の土地利用状況



# 市街化区域、市街化調整区域の変更(H29以降)

令和5年7月  
市街化区域に編入  
(35.2ha)



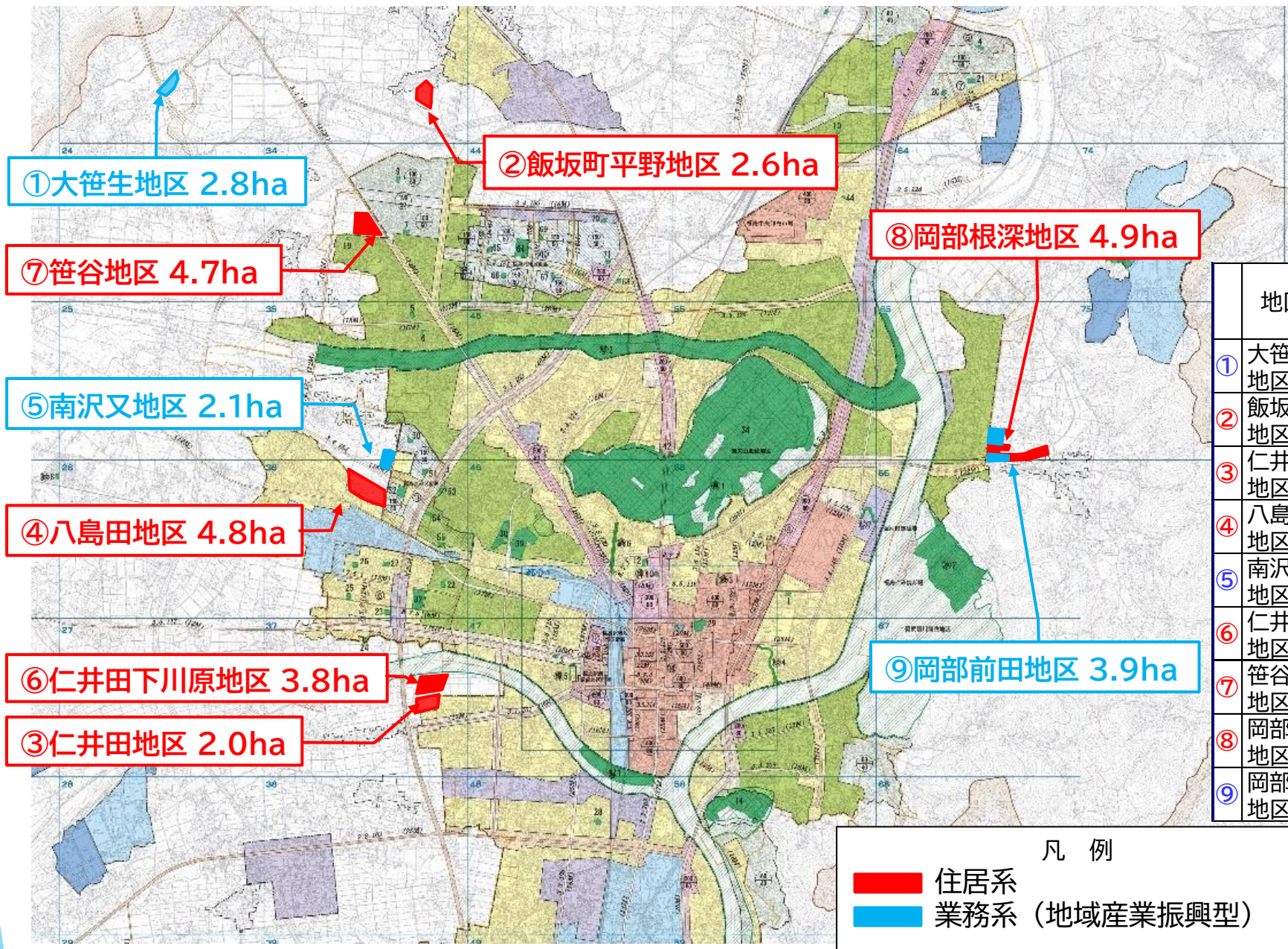
## ■主要データ

	面積(km <sup>2</sup> )	人口(人)
総数(市全体)	767.72	282,693
都市計画区域 (立地適正化計画区域)	228.74 (29.8%)	272,434 (96.4%)
市街化区域	50.59 (6.6%)	219,422 (77.6%)
市街化調整区域	178.15 (23.2%)	53,012 (18.8%)

面積:令和7年3月末現在  
人口:令和2年国勢調査

令和5年7月  
市街化調整区域に編入  
(19.5ha)

# 市街化調整区域における地区計画

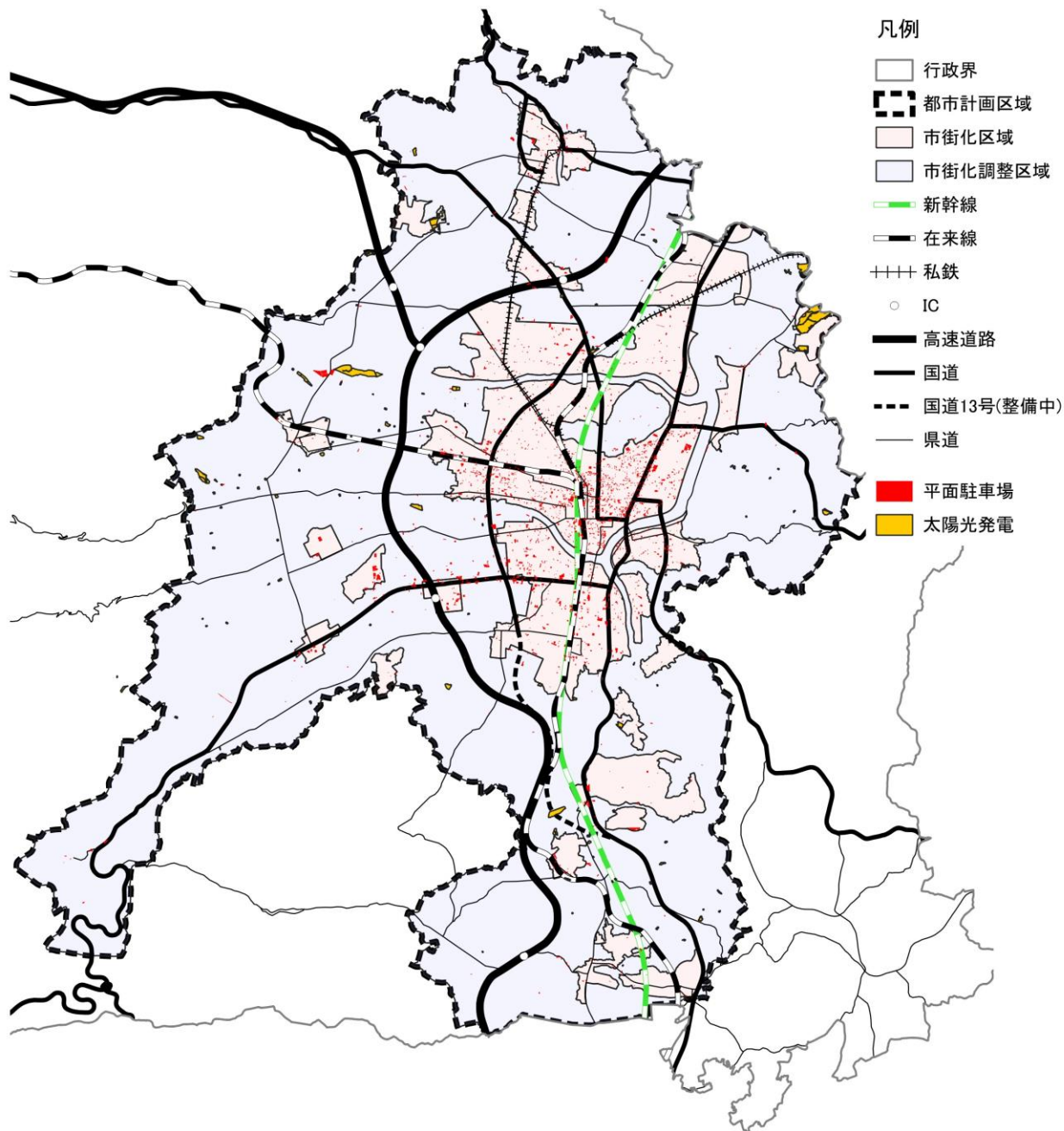
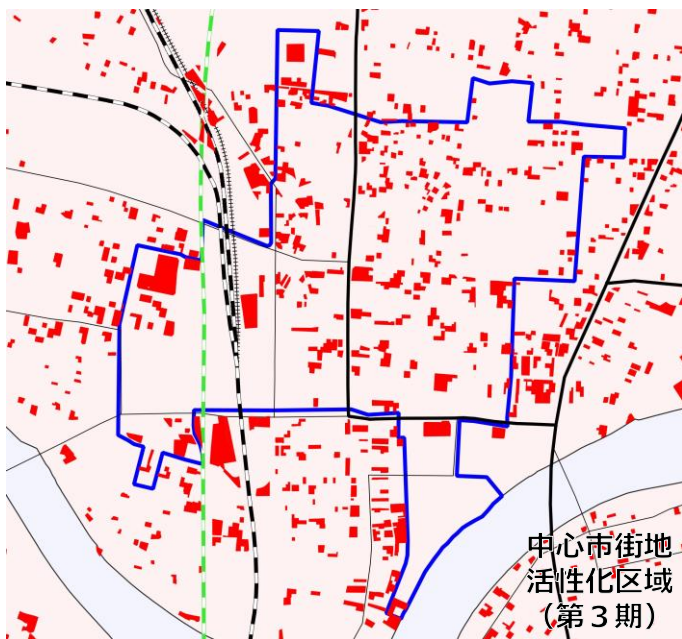


地区計画名	都市計画決定 開発完了	用途	面積
① 大笹生地区計画	H29.12.1 R4.2.7	地域振興施設 (道の駅ふくしま)	約2.8ha
② 飯坂町平野地区計画	H30.9.4 R1.10.17	宅地分譲 89区画	約2.6ha
③ 仁井田地区計画	H30.9.4 R1.8.28	宅地分譲 73区画	約2.0ha
④ 八島田地区計画	H30.9.4 R2.2.13	宅地分譲 115区画	約4.8ha
⑤ 南沢又地区計画	H30.9.4 R1.10.25	地域振興施設 (ﾀﾞｲｲ-ｲﾄ)	約2.1ha
⑥ 仁井田下川原地区計画	R4.6.2 R5.10.18	宅地分譲 106区画	約3.8ha
⑦ 笹谷地区計画	R5.3.10 R7.4.8	宅地分譲 138区画	約4.7ha
⑧ 岡部根深地区計画	R5.3.10 R7.10.24	宅地分譲 133区画	約4.9ha
⑨ 岡部前田地区計画	R5.3.10 R7.10.24	地域振興施設 (いちい他)	約3.9ha

# 平面駐車場等の状況

- 市街化区域では、平面駐車場が多く見られる。
- 市街化調整区域では、低未利用地や農地から大規模な太陽光発電用地への転換が想定される。

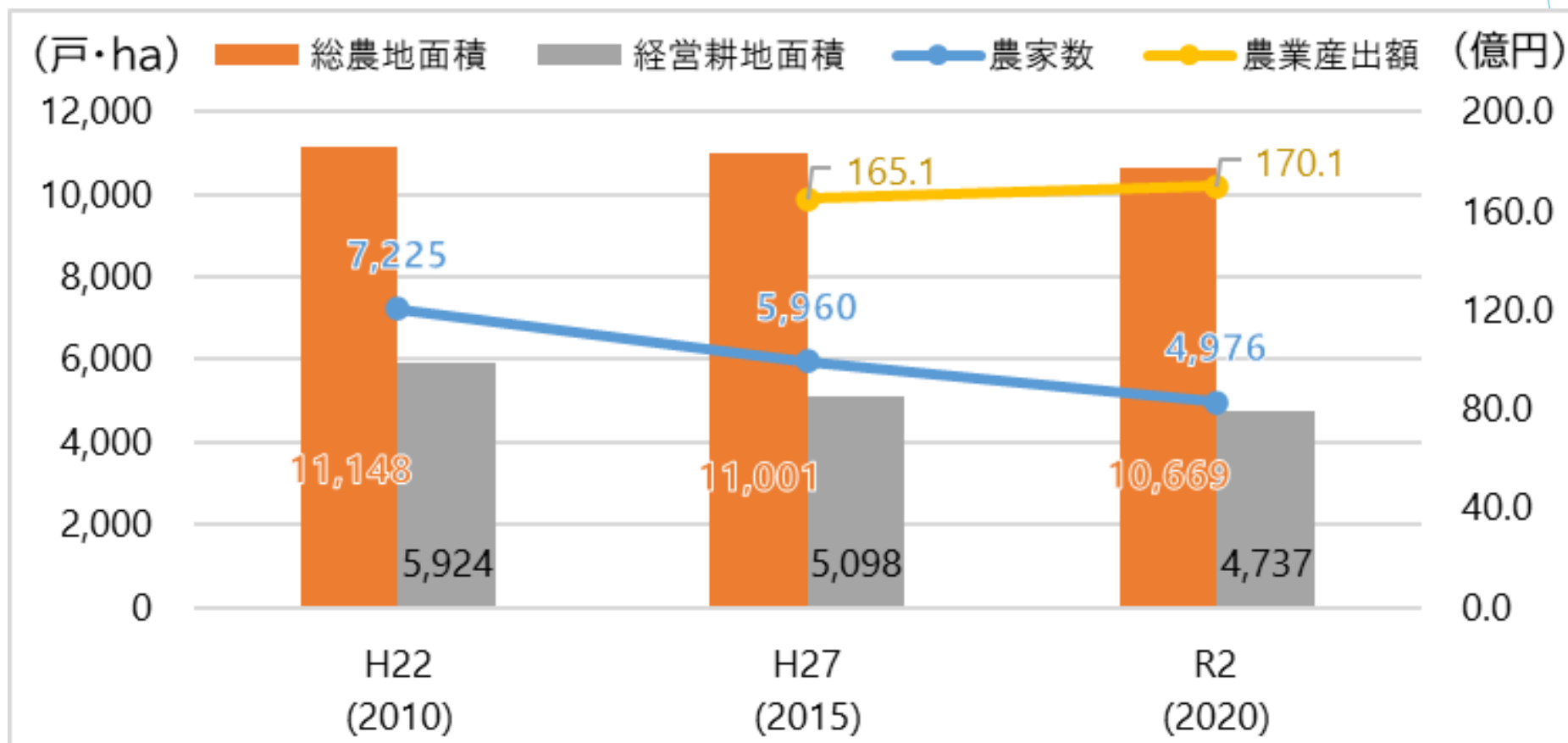
中心市街地部分の低未利用地状況



# 3.産業の状況

# 農業の状況

- 福島市の農業は、総農地面積（田+畑）、経営耕地面積、農家数ともに平成22年以降減少し続けている。
- また、農地面積が減少しているのに対し、農業算出額は増加傾向にある。



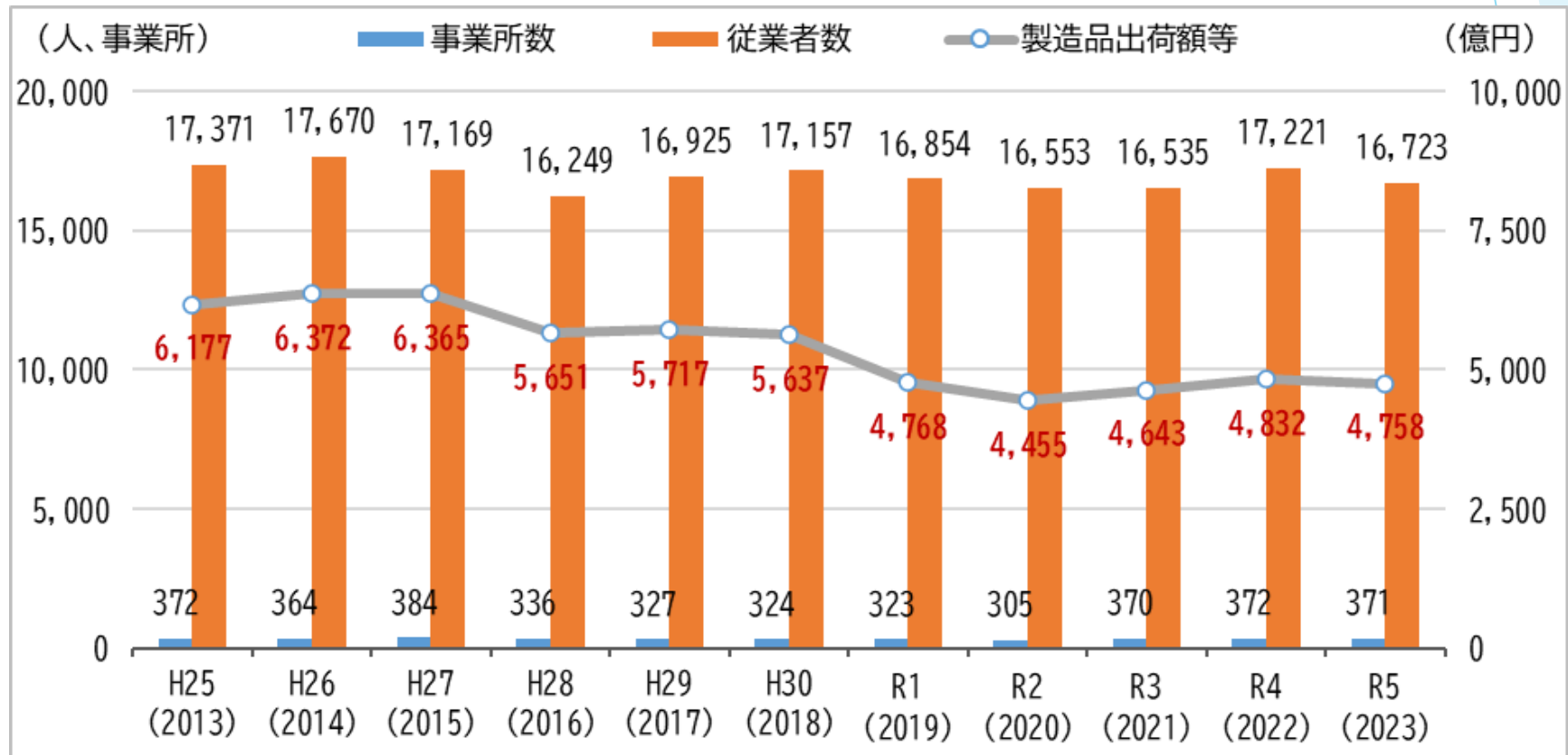
※平成22年の農業産出額の公表データなし

出典：福島市統計書（固定資産概要調書）

農林業センサス

# 工業の状況

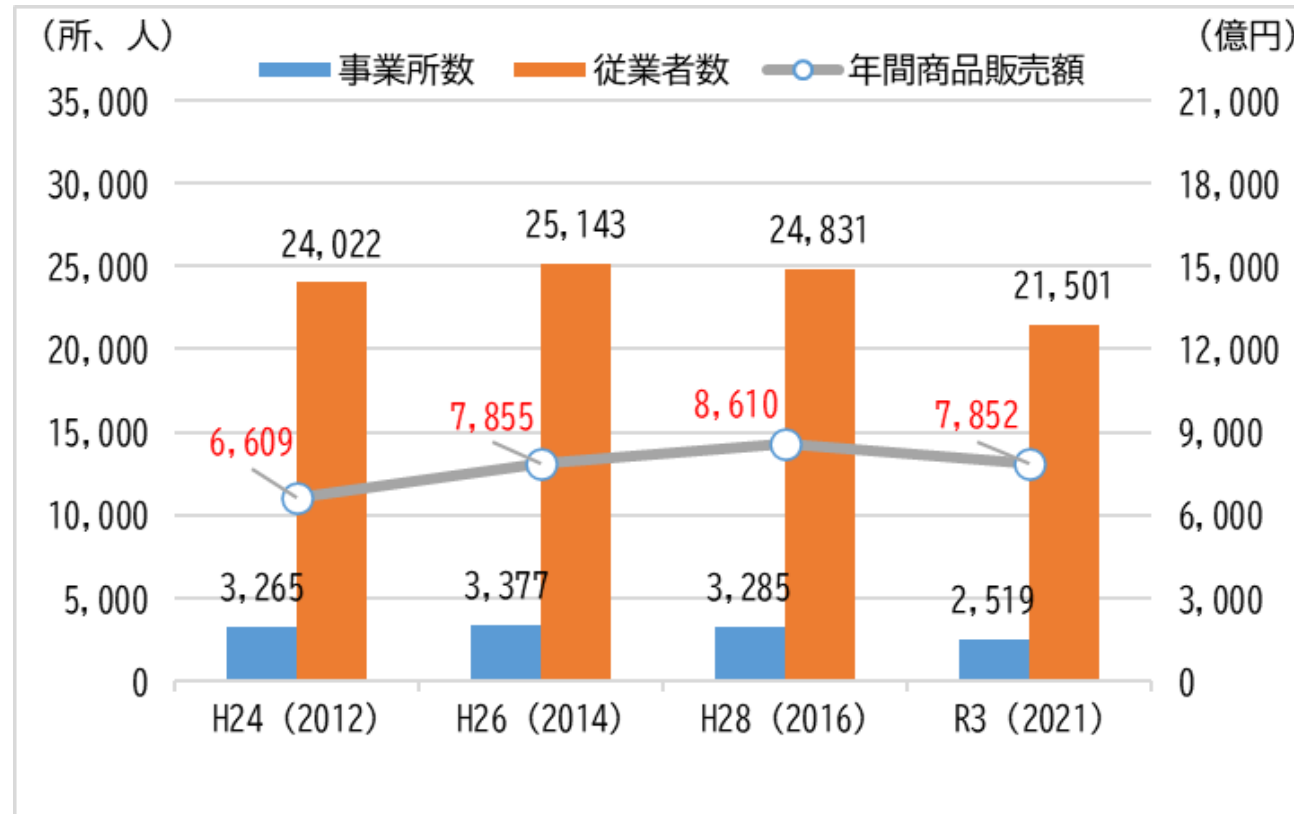
- 福島市の製造品出荷額等は令和元年までほぼ横ばいで推移し、平成30年～令和2年にかけて大きく減少し、その後増加に転じている。
- 従業者数はコロナ禍（2020年1月以降）前後も大きな増減はない。
- 事業所数は令和元年～令和2年にかけて大きく減少していたが、令和3年以降はコロナ禍以前の水準以上に回復している。



出典：福島市統計書、経済センサス

# 商業の状況

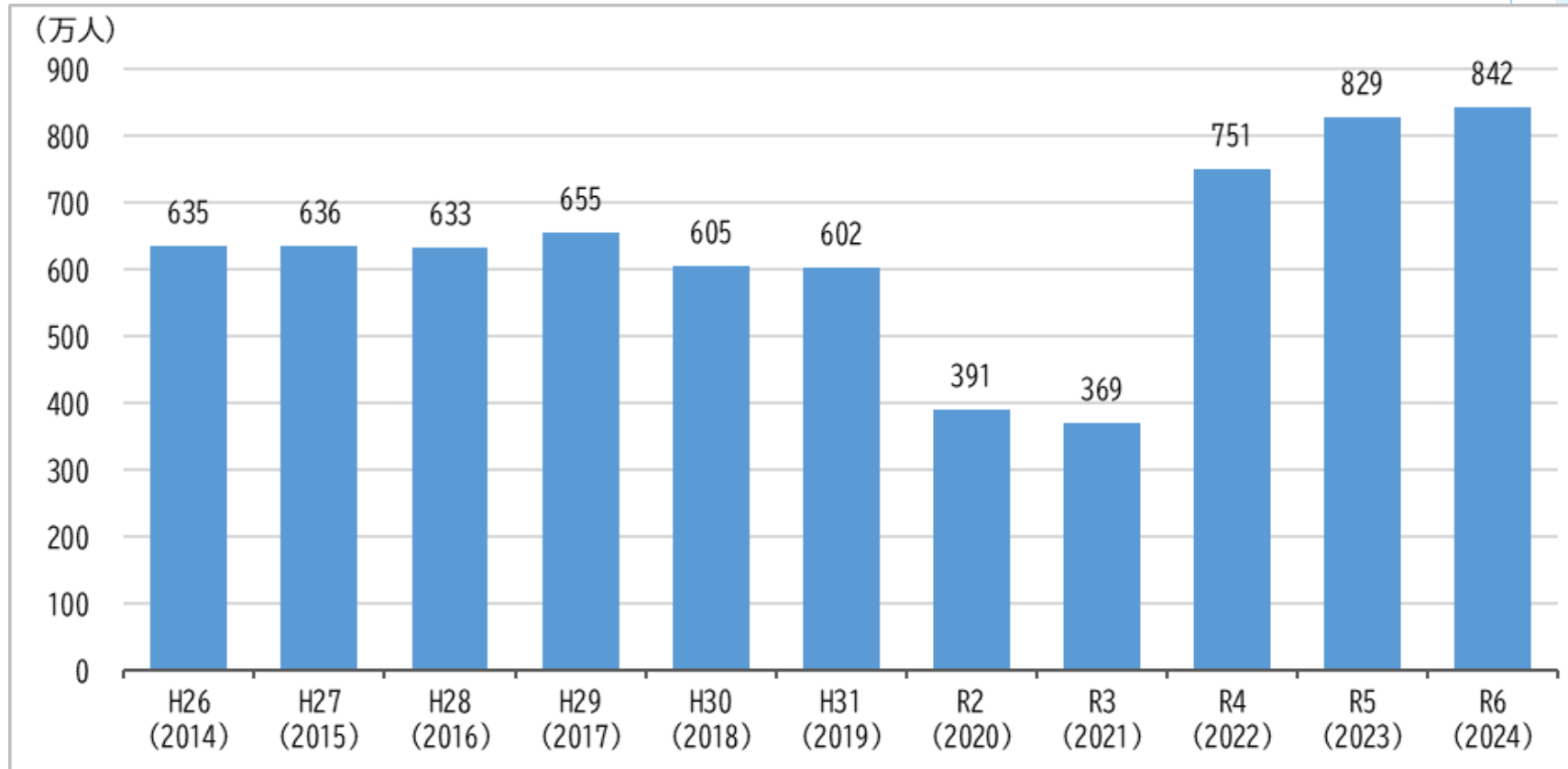
- 福島市における約10年間（平成24年から令和3年）の年間商品販売額の推移は、東日本大震災があった翌年の平成24年以降は増加傾向にあり、コロナ禍後の令和3年に減少している。
- 事業所数はほぼ横ばいだったが、令和3年に減少している。
- 従業者数は平成28年まではほぼ横ばいとなっており、令和3年は減少している。



出典：福島市統計書、経済センサス

# 観光業の状況

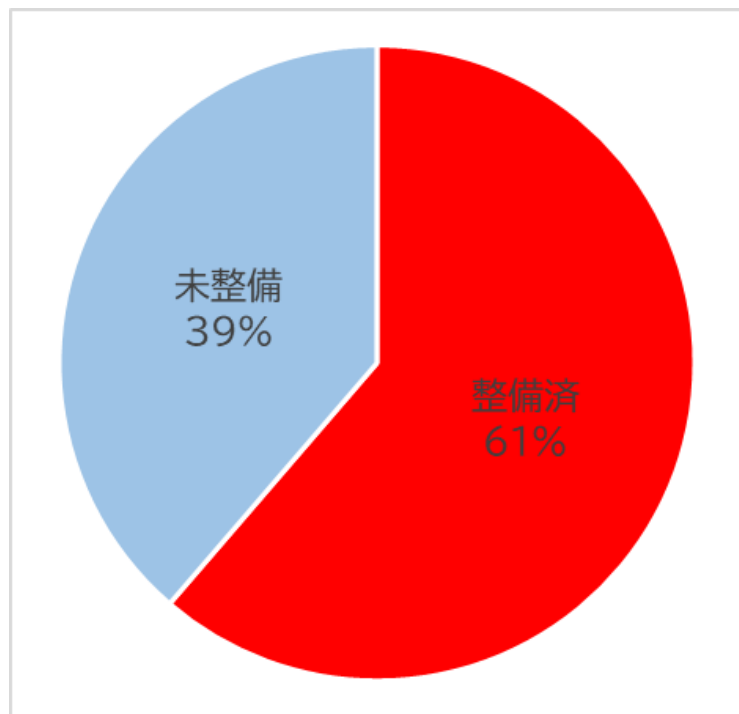
- 福島市の観光入込客数は、令和元年まで600～650万人程度で推移しており、令和元年以降のコロナ禍による全体の観光客数減少により、令和2年～3年の観光入込客数は400万人以下まで減少した。
- 令和4年以降は750万人（令和4年）、830万人（令和5年）、840万人（令和6年）と3年連続で過去最高の観光入込客数を記録している。



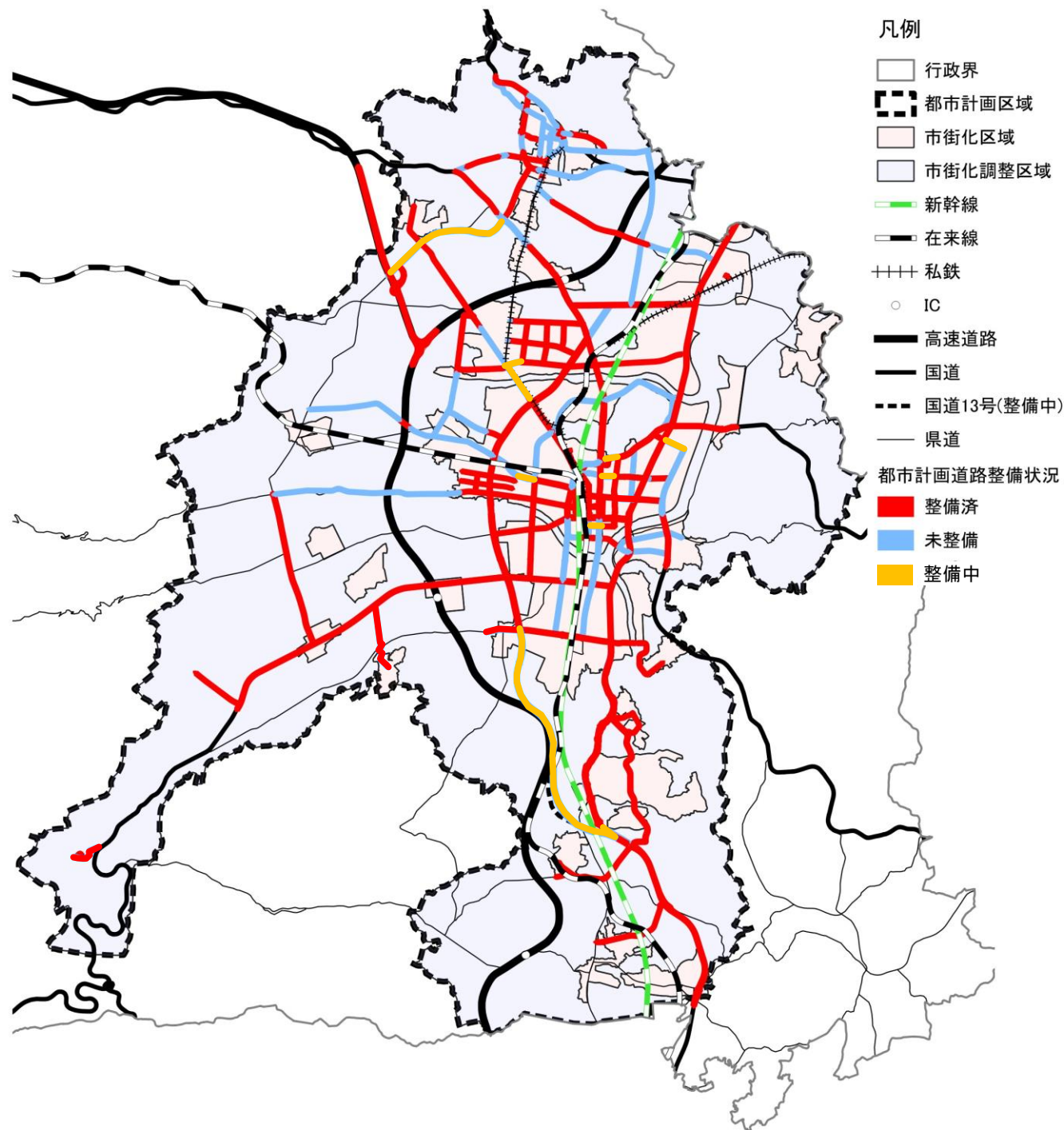
## 4.都市施設の状況

# 都市計画道路の状況

- 都市計画道路の整備状況を見ると、約6割が整備済となっている。
- 未整備の道路のうち、令和4年度に公表した長期未着手道路の見直し方針では、20路線（約30km）となった。このうち、5路線（約9km）について廃止・変更している。

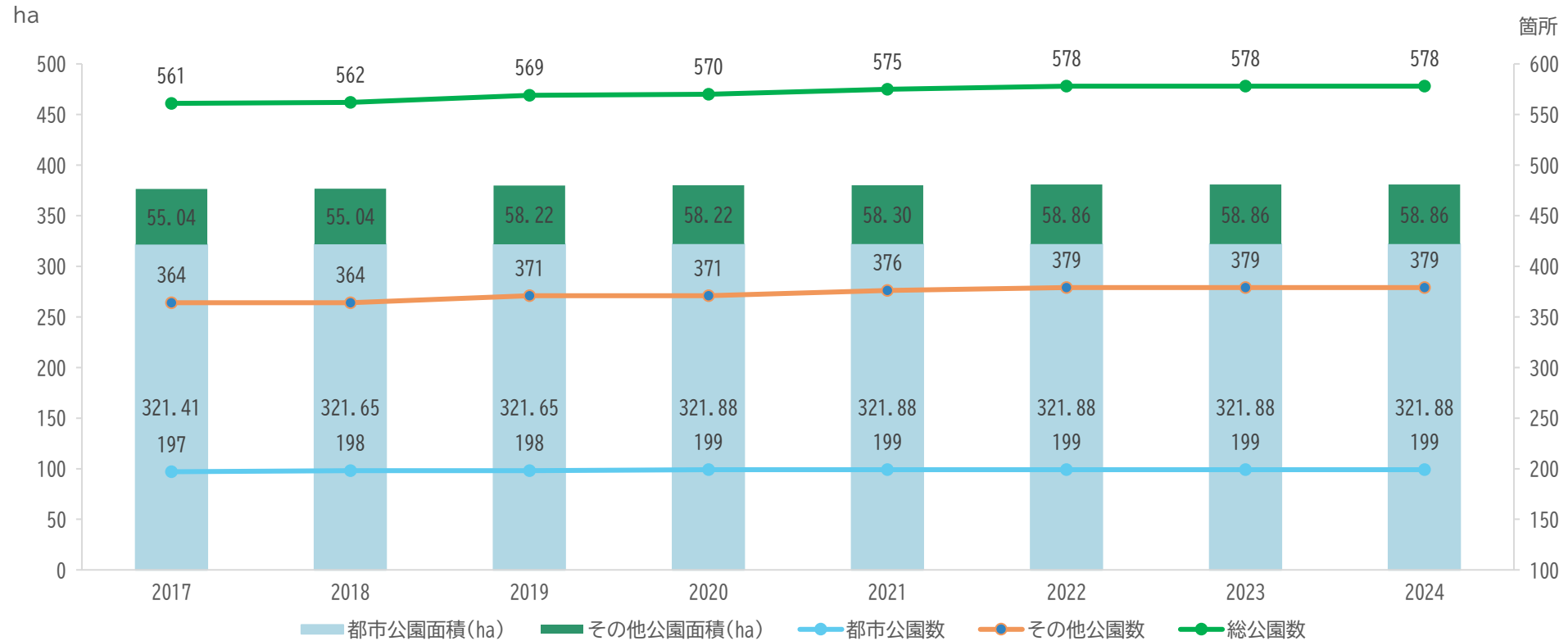


出典：福島市オープンデータ（図・グラフ）



# 都市公園の状況

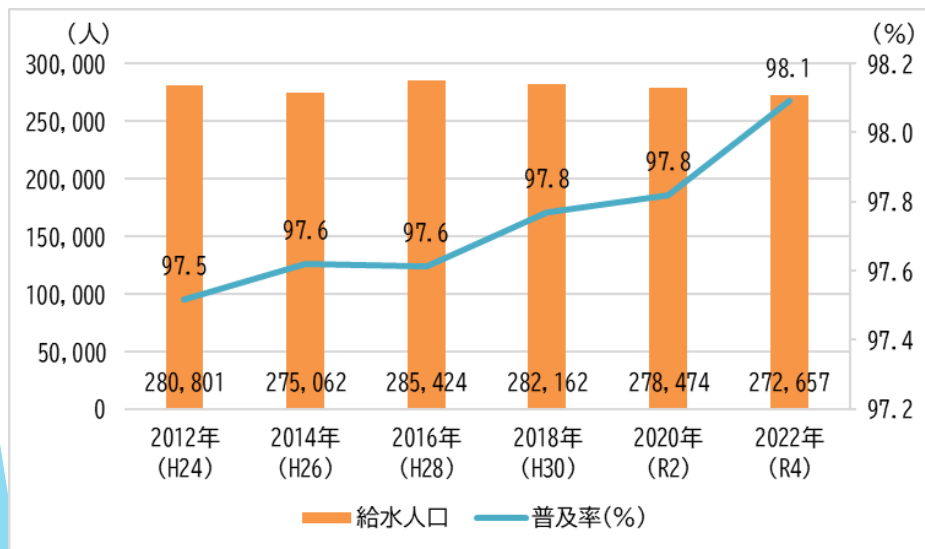
- 都市公園は、計画的な整備により現在199箇所整備されているが、近年の増加はわずかである。
- その他公園は、開発行為による公園などにより増加しており、都市公園の2倍近い数となっている。



# 上水道の状況

- 福島市の給水人口は28万人前後で推移している。
- 上水道普及率（行政区域内の給水人口割合）は9割以上で年々増加している。
- 整備後30～39年の管路の割合が最も多く、整備後40年（法定耐用年数）を経過する管路の割合は19.7%を占めている。

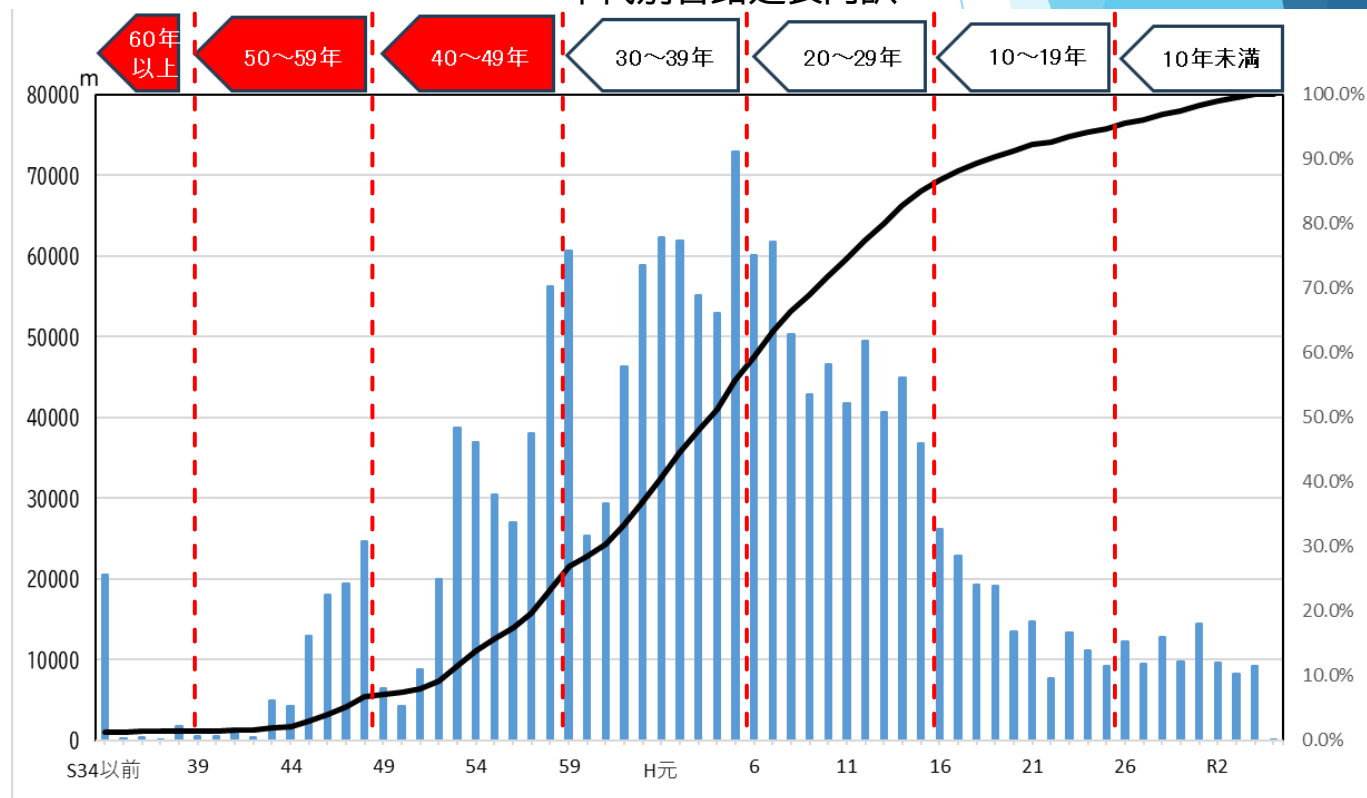
給水人口と普及率



※普及率  
= 給水人口 / 行政区域内人口

出典：福島市統計書

年代別管路延長内訳

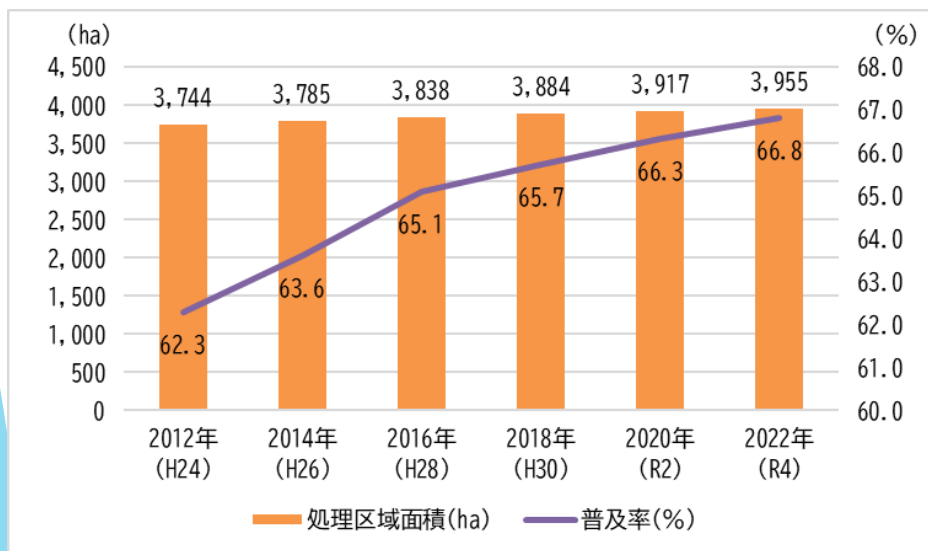


出典：上下水道局 経営企画課

# 下水道の状況

- 福島市の下水道の状況として、処理区域面積及び普及率は年々微増している。
- 整備から30年以上経過が全体の約50%、整備後50年(法定耐用年数)を経過する管路の割合は約10%を占めており、今後維持管理に係るコストが急激に増加する。

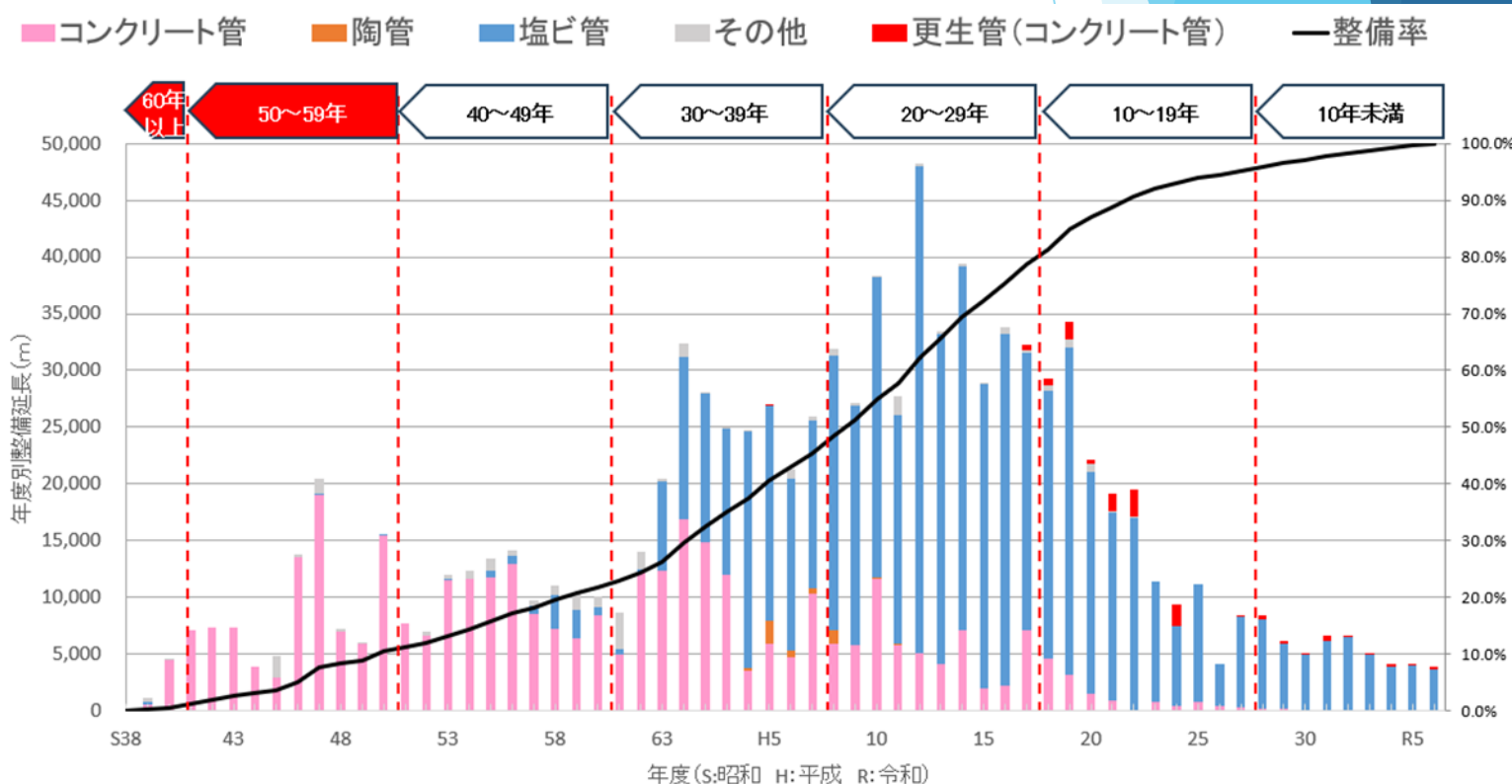
処理区域面積と普及率



出典：福島市統計書

※普及率  
= 処理区域人口 / 行政区域内人口

年代別管路延長内訳

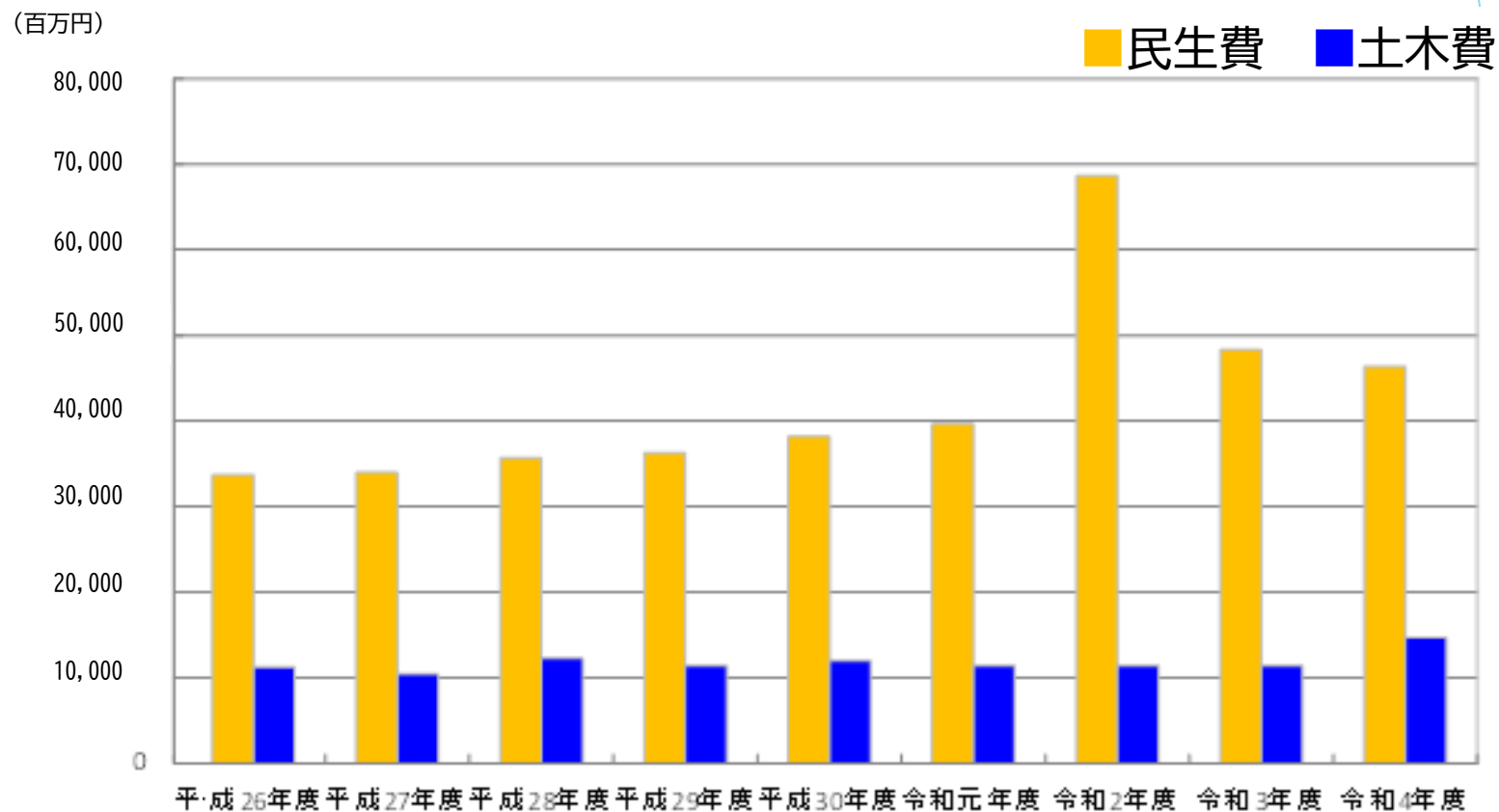


出典：上下水道局 下水道整備課

# 5.財政の状況

# 歳出状況

- 少子高齢化の進展などの影響により民生費が増加傾向にある一方、新たな公共投資や維持管理費用などの土木費は横ばいの状況である。今後も民生費の支出割合増加が見込まれるため、投資的経費の財源確保が難しくなると予想される。



出典：福島市各会計歳入歳出決算及び基金運用状況審査意見書

# 福島市の都市の状況の総括

## ●都市の状況の総括

- 総人口は、2001年（平成13年）をピークにその後は**減少傾向**にある。
- 少子高齢化は進行し、老年人口は増加傾向にあるが、**年少人口・生産年齢人口が減少を続ける**。
- 人口減少は、出生数の減少などの自然減と、若年層の転出超過が続くことによる社会減が要因と想定される。
- 人口減少が進むことで、**就業者数はさらなる減少**が見込まれ、働き手の不足に伴い、公共交通や物流、医療や介護など、**地域に必要なサービスの提供が困難になることが懸念**される。
- 人口減少・少子高齢化に伴い、**民生費の増加**が想定されるため、公共施設等の管理・更新の経費である土木費等の**投資的経費の確保が困難**になる状況が想定される。
- 人口減少に伴い、今後世帯数の減少が進行すると、**空き地などの低未利用地の増加**が予想される。

# 市民アンケート調査の結果について

# 市民の意見の収集手法

**市民アンケート** (令和7年10月実施)

性別・居住地区を考慮して無作為に抽出した、  
15歳以上の市民3,000人へのアンケートを実施

**LINEアンケート** (令和7年5月実施)

【市民アンケートの補完】  
SNS(LINE)を活用し、市公式アカウントよりLINE登録者へ通知し、  
まちづくりに関心のある市民より意見を募った。

**パブリックコメント** (素案作成後:令和9年度実施予定)

計画の素案に対する意見を募集

# 市民アンケートの概要

## ●福島市のまちづくりに関する市民アンケート調査

### 実施期間

令和7年10月27日～

令和7年11月17日

### 回答方法

インターネットおよび郵送

### 対象者数

3,000人（15歳以上の福島市民）

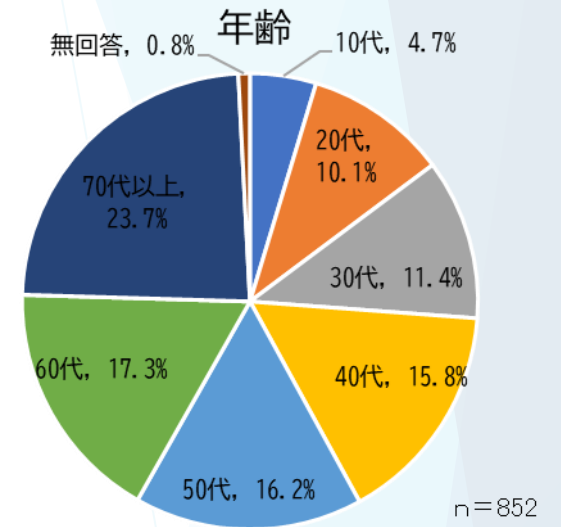
※性別・年代等を考慮のうえ無作為抽出

### 回答者

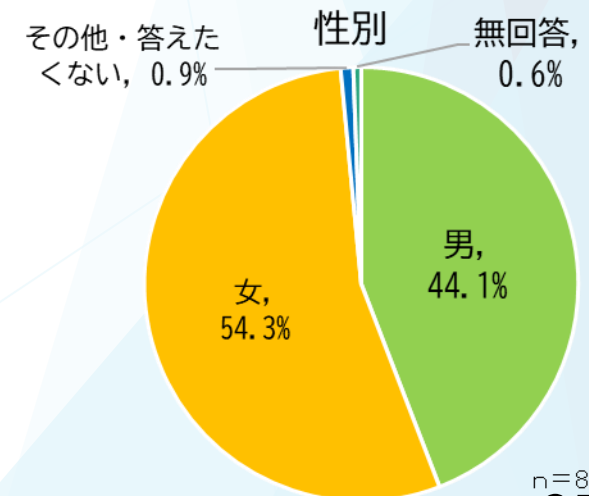
852人

（回答率：28.4%）

年齢層	発 送		回 答		
	発送数	構成比	回答数	回答率	構成比
10代	211	7.0%	40	19.0%	4.7%
20代	516	17.2%	86	16.7%	10.1%
30代	446	14.9%	97	21.7%	11.4%
40代	465	15.5%	135	29.0%	15.8%
50代	421	14.0%	138	32.8%	16.2%
60代	328	10.9%	147	44.8%	17.3%
70代以上	613	20.4%	202	33.0%	23.7%
無回答	—	—	7	—	0.08
合計	3000	100%	852	28.4%	100%



性別	回答数	構成比
男	376	44.1%
女	463	54.3%
その他・答えた くない	8	0.9%
無回答	5	0.6%
合計	852	100%



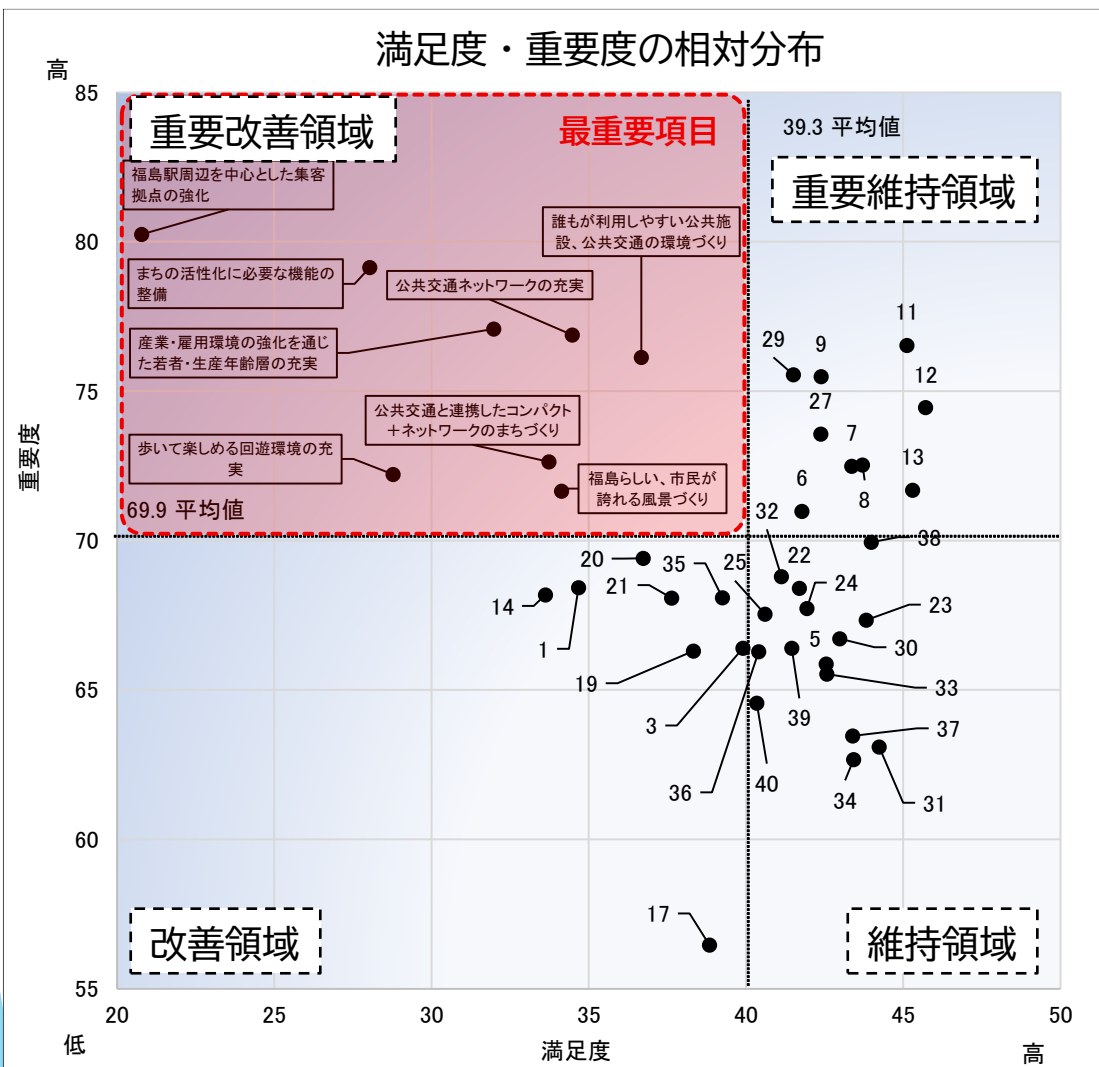
# 市民アンケートの概要

## ■アンケート内容

	設問内容
問1	性別
問2	年齢
問3	職業
問4	居住地区
問5	福島市のまちづくりにおける満足度・重要度 土地利用、道路・交通、都市防災、中心市街地活性化、都市景観形成、水と緑、 産業振興、健康・福祉、住宅・住環境、その他の都市施設、希望ある復興
問6	居住地区における満足度・重要度
問7	居住地区で愛着・誇りを感じる場所や大切にしたい風景
	自由意見

# 問5 福島市のまちづくりにおける満足度・重要度

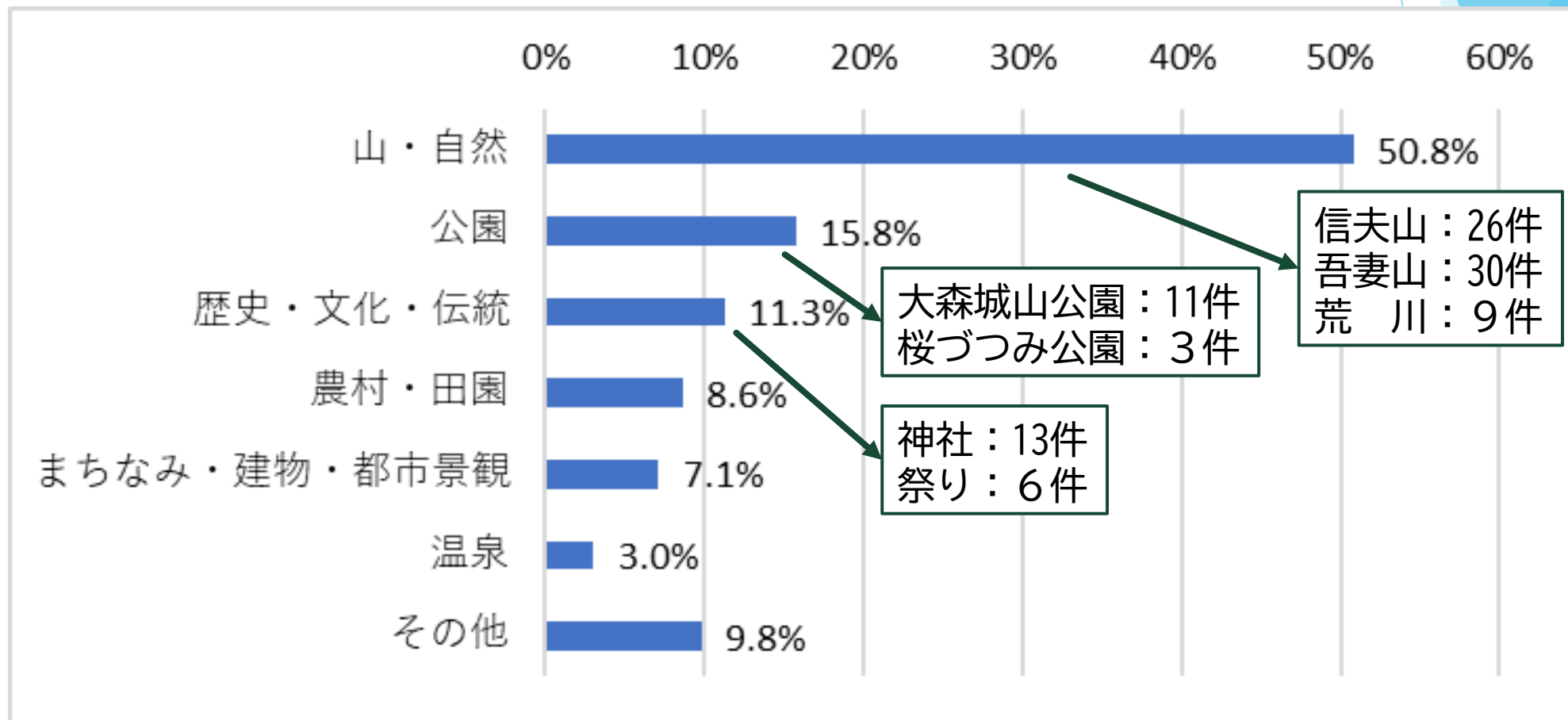
●満足度が低く、重要度が高い要素（重要改善領域）として、「福島駅周辺を中心とした集客拠点の強化」「まちの活性化に必要な機能の整備」「産業・雇用環境の強化を通じた若者・生産年齢層の充実」等が挙げられている。



1	適切な土地利用が図られたコンパクトなまちづくり	21	良好な景観形成に向けた新たな仕組みづくり
2	公共交通と連携したコンパクト+ネットワークのまちづくり	22	自然資源及び大規模公園などの積極的保全、活用
3	無秩序な市街地拡大防止と適正な市街地確保	23	地域特性を踏まえた水と緑に親しみ愛着を育む都市づくり
4	まちの活性化に必要な機能の整備	24	既存産業の維持増進
5	交通条件の優れた場所における工業流通拠点等の整備	25	交通条件の優れた適地への新たな産業拠点等の導入
6	良好な自然・田園環境の保全・活用と定住環境の向上	26	産業・雇用環境の強化を通じた若者・生産年齢層の充実
7	主要幹線道路の整備	27	健康で安心して暮らせる都市環境の形成
8	道路施設の効率的な維持・更新	28	誰もが利用しやすい公共施設、公共交通の環境づくり
9	安全で快適な市民生活を支える道路整備	29	健康・福祉活動に資する場の充実や福祉・医療サービス施設等の整備促進
10	公共交通ネットワークの充実	30	既存の運動施設等を活かした市民の健康増進の活動支援
11	災害に強いまちづくりの推進	31	多彩な居住環境に対応した住宅・住環境の向上
12	防災拠点、避難場所や避難路の計画的整備	32	住み続けたい住宅・住環境の充実
13	身近な減災体制の強化	33	居住者ニーズを踏まえた住宅・住環境の整備促進
14	中心市街地への都市機能の集積強化	34	既存ストックや民間住宅を活用した公的住宅の供給支援
15	福島駅周辺を中心とした集客拠点の強化	35	市民ニーズを踏まえた公共公益施設の整備
16	歩いて楽しめる回遊環境の充実	36	効率的な公共投資と施設の利用促進
17	まちなか居住の促進	37	公共施設の省エネルギー化による循環型社会の構築
18	福島らしい、市民が誇れる風景づくり	38	原子力災害からの復興による市民生活の安全・安心の確保
19	みんなで守り・育てる「協働」の景観まちづくり	39	産業の振興や復興を先導する拠点整備
20	山並みや山頂からの眺望を守り育てる景観づくり	40	本市の地域特性にあった再生可能エネルギー導入の積極的推進

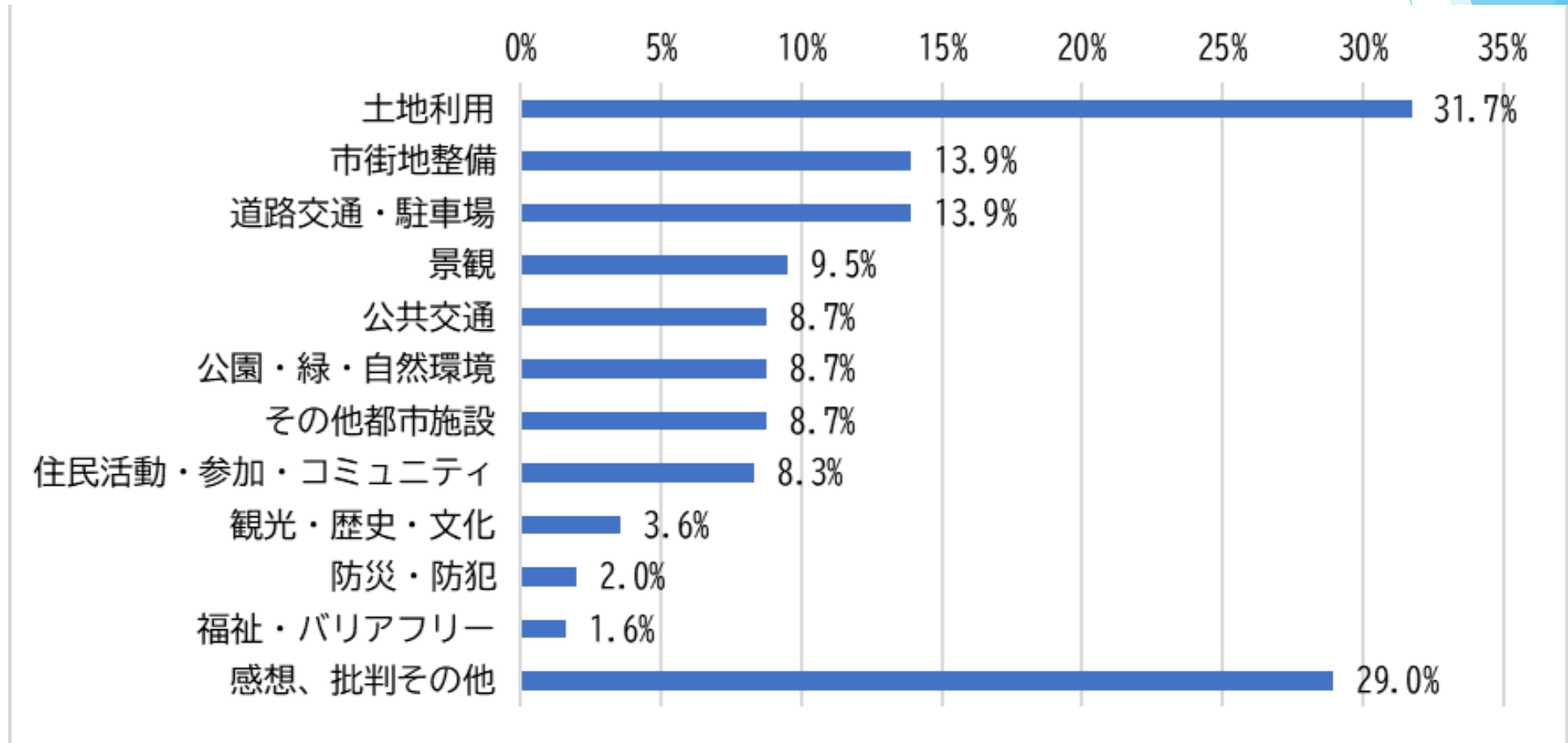
# 問7 愛着や誇りを感じる場所・大切にしたい風景

- 信夫山や吾妻山など、山や自然に関する意見が半数以上を占め、次いで大森城跡公園などの公園への意見が15.8%、歴史・文化・伝統が11.8%と上位を占めている。



# 自由意見

- 土地利用、市街地整備と道路交通・駐車場、景観に関する意見が上位を占めていた。
- 土地利用では、福島駅周辺の商業施設の誘致や活性化などに関する意見が多く寄せられた。
- 市街地整備や道路交通・駐車場では、福島駅東西の移動円滑化や駐車場、駐輪場の整備に関する意見が多く寄せられた。



# LINEアンケートの概要

- LINEを活用した都市マスタープラン改定にかかる、各地区まちづくり計画に対する希望調査  
【市民アンケートの補完】

## 実施期間

令和7年5月27日～  
令和7年6月10日

## 回答方法

インターネット

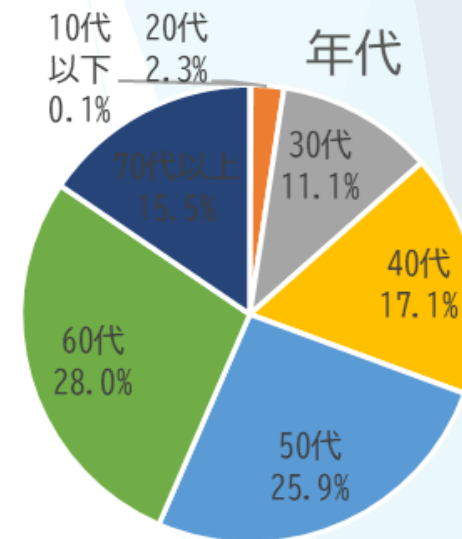
## 対象者数

54,815人  
(市公式LINE友だち登録者のうち、  
受信設定が市内かつアンケート同意者)

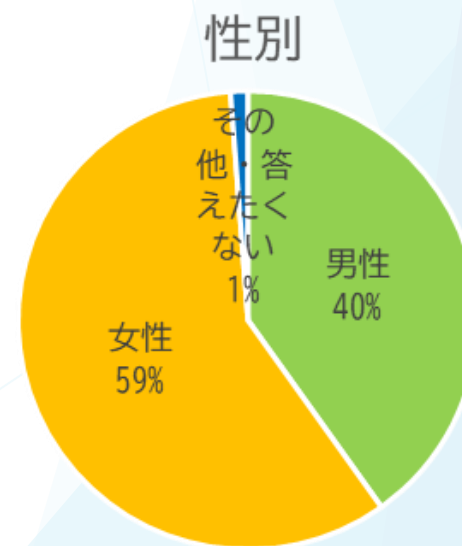
## 回答者

2,387人 (回答率：4.35%)

年齢層	回答	
	回答数	構成比
10代以下	2	0.1%
20代	55	2.3%
30代	265	11.1%
40代	409	17.1%
50代	618	25.9%
60代	668	28.0%
70代以上	370	15.5%
合計	2,387	100%



性別	回答数	構成比
男	958	40.1%
女	1400	58.7%
その他・ 答えたくない	29	1.2%
合計	2,387	100%



# LINEアンケートの概要

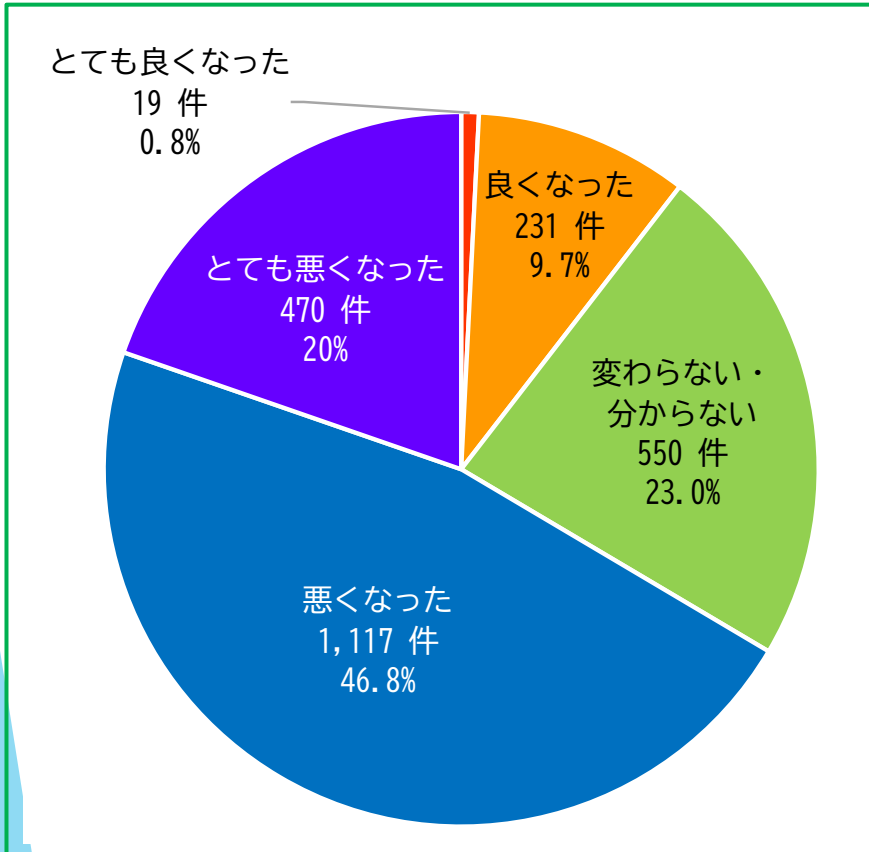
## ■アンケート内容

	設問内容
問1	性別
問2	年齢
問3	居住地区
問4	居住歴
問5	福島市のまちは、10年前と比べてどうなったと感じるか（福島市全体）
問6	問5の回答に至った要因として、よくなったと思うもの
問7	問5の回答に至った要因として、悪くなったと思うもの
問8	将来の福島市のまちづくりにおいて何が重要だと思うか
問9	居住地区は、10年前と比べてどうなったと感じるか（地区別）
問10	問9の回答に至った要因として、よくなったと思うもの
問11	問9の回答に至った要因として、悪くなったと思うもの
問12	将来、居住地区がどのような地区になってほしいか
問13	居住地区で愛着・誇りを感じる場所やこれからも大切にしたい風景
	自由意見

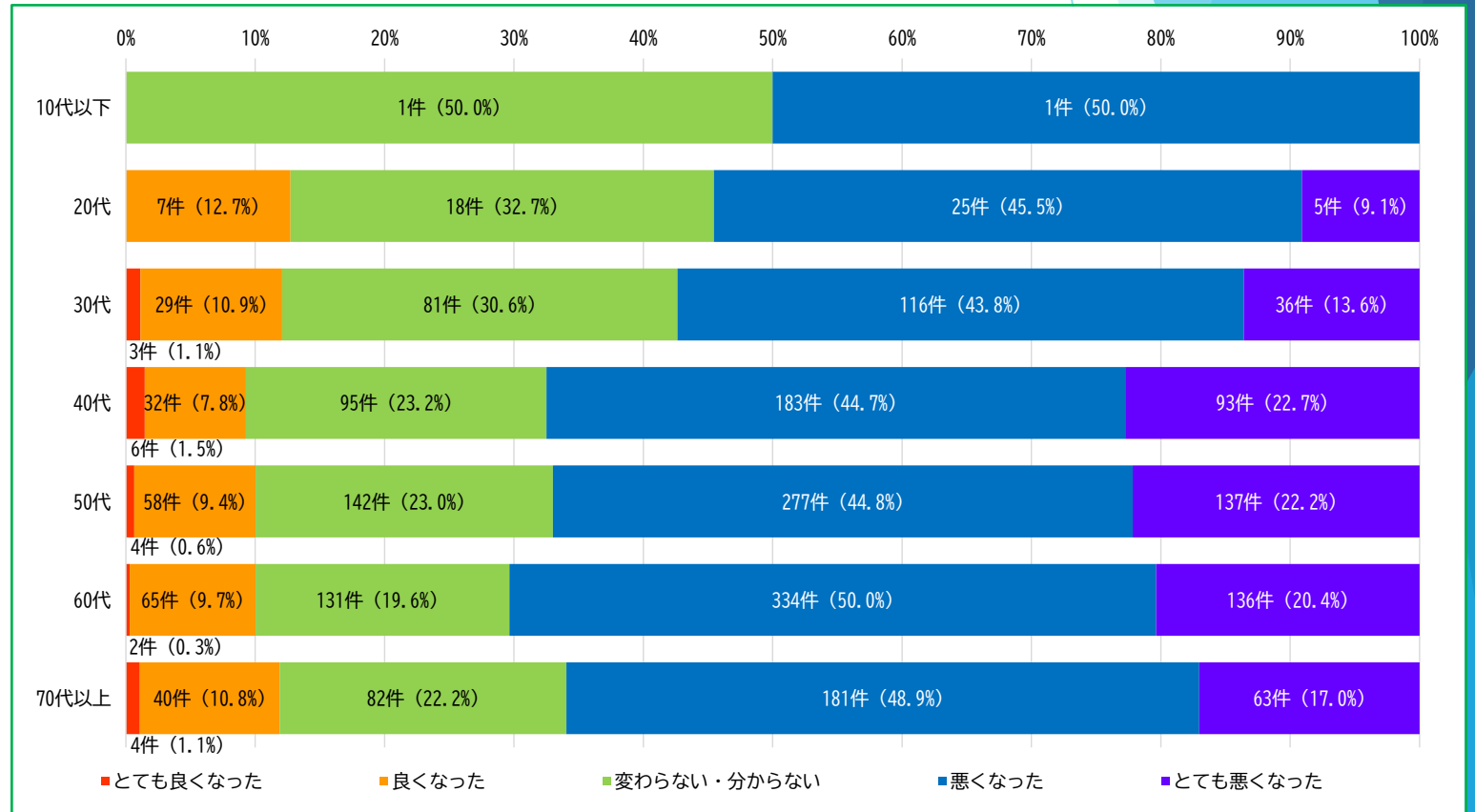
# [LINE]問5 福島市のまちは10年前と比べてどうなったか

- 「とても悪くなった」「悪くなった」と回答した方は66.5%となっており、マイナスな意見が極めて多い。  
年代別の評価をみると、年代を重ねるごとに「とても悪くなった」「悪くなった」とする意見が多くなっており、特に40代以上は7割程度がマイナスな意見となっている。

## ■福島市全体の評価



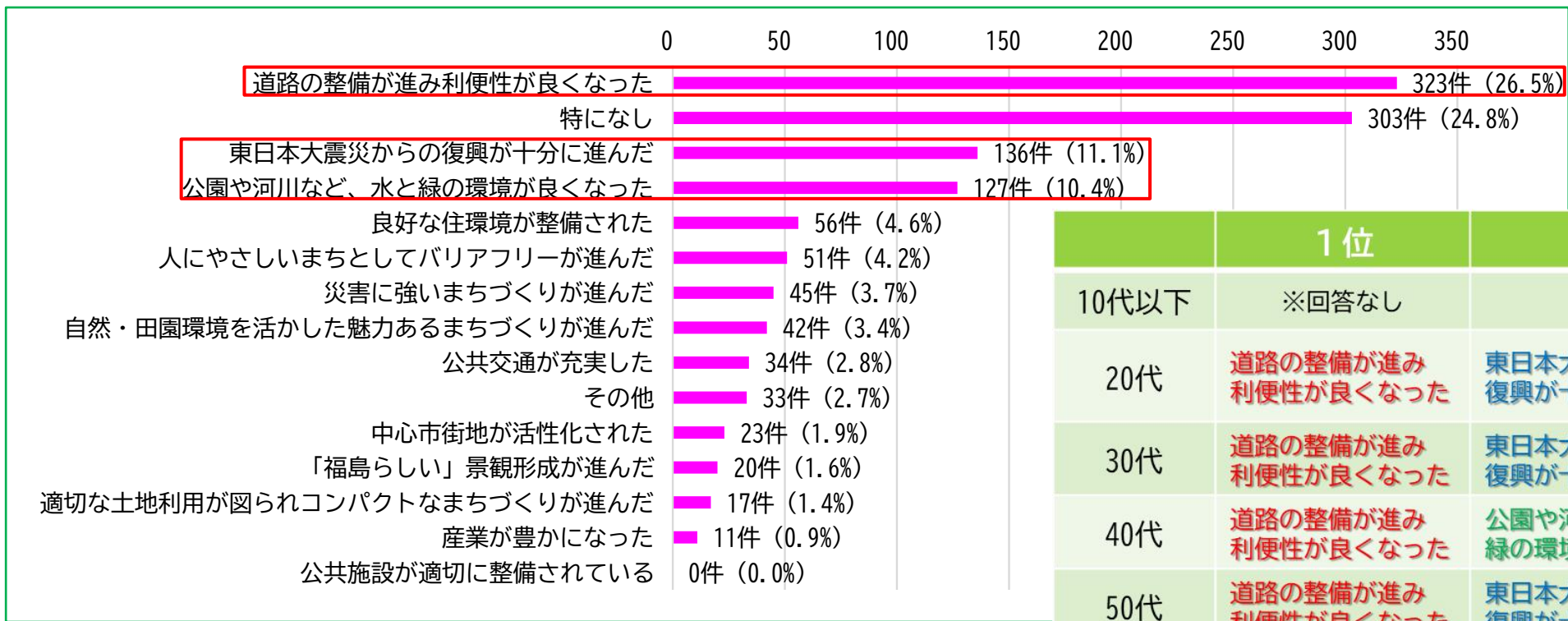
## ■年代別の評価



# [LINE]問6 よくなったと思うもの

●福島市がよくなったと感じる要因として、全世代にわたって道路・公園などのインフラの整備、東日本大震災からの復興を挙げた意見が多い。

## ■よくなったと思うもの(上位3つまで回答)

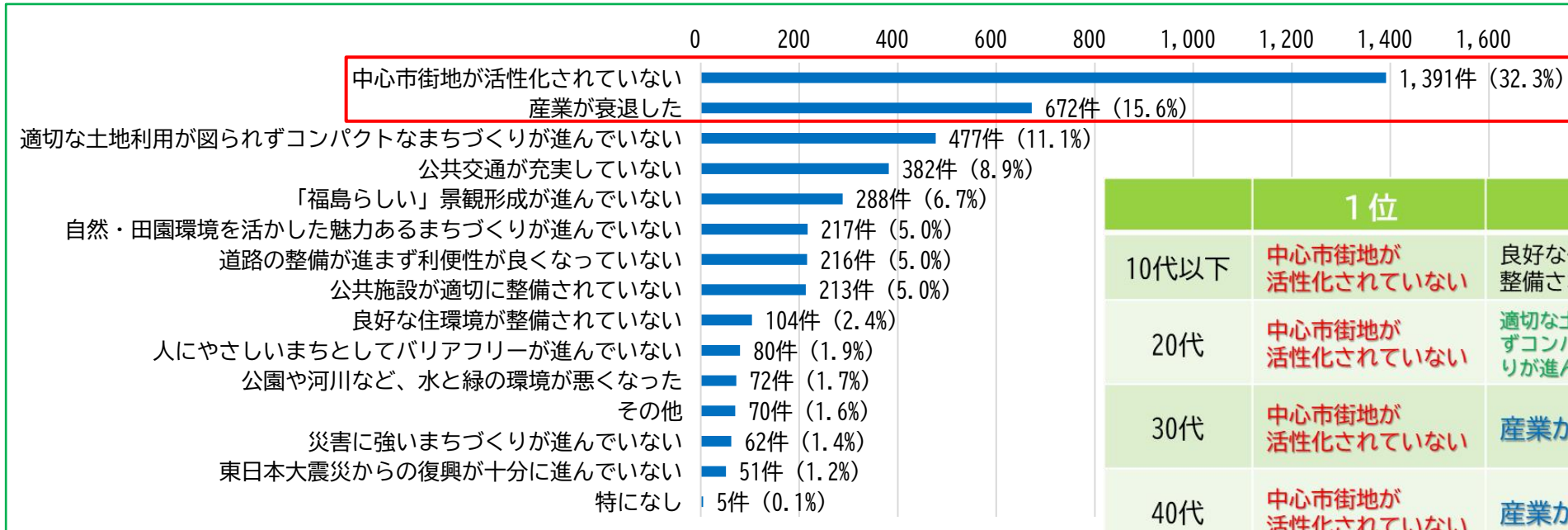


	1位	2位	3位
10代以下	※回答なし		
20代	道路の整備が進み利便性が良くなった	東日本大震災からの復興が十分に進んだ	適切な土地利用が図られコンパクトなまちづくりが進んだ
30代	道路の整備が進み利便性が良くなった	東日本大震災からの復興が十分に進んだ	公園や河川など、水と緑の環境が良くなった
40代	道路の整備が進み利便性が良くなった	公園や河川など、水と緑の環境が良くなった	東日本大震災からの復興が十分に進んだ
50代	道路の整備が進み利便性が良くなった	東日本大震災からの復興が十分に進んだ	良好な住環境が整備された
60代	道路の整備が進み利便性が良くなった	公園や河川など、水と緑の環境が良くなった	東日本大震災からの復興が十分に進んだ
70代	道路の整備が進み利便性が良くなった	公園や河川など、水と緑の環境が良くなった	東日本大震災からの復興が十分に進んだ

# [LINE]問7 悪くなったと思うもの

●福島市が悪くなったと感じる要因として、福島駅の東口再開発事業の遅れや西口商業施設の撤退等に起因する中心市街地及び産業の衰退を挙げた意見が全世代で多い。

## ■わるくなったと思うもの(上位3つまで回答)

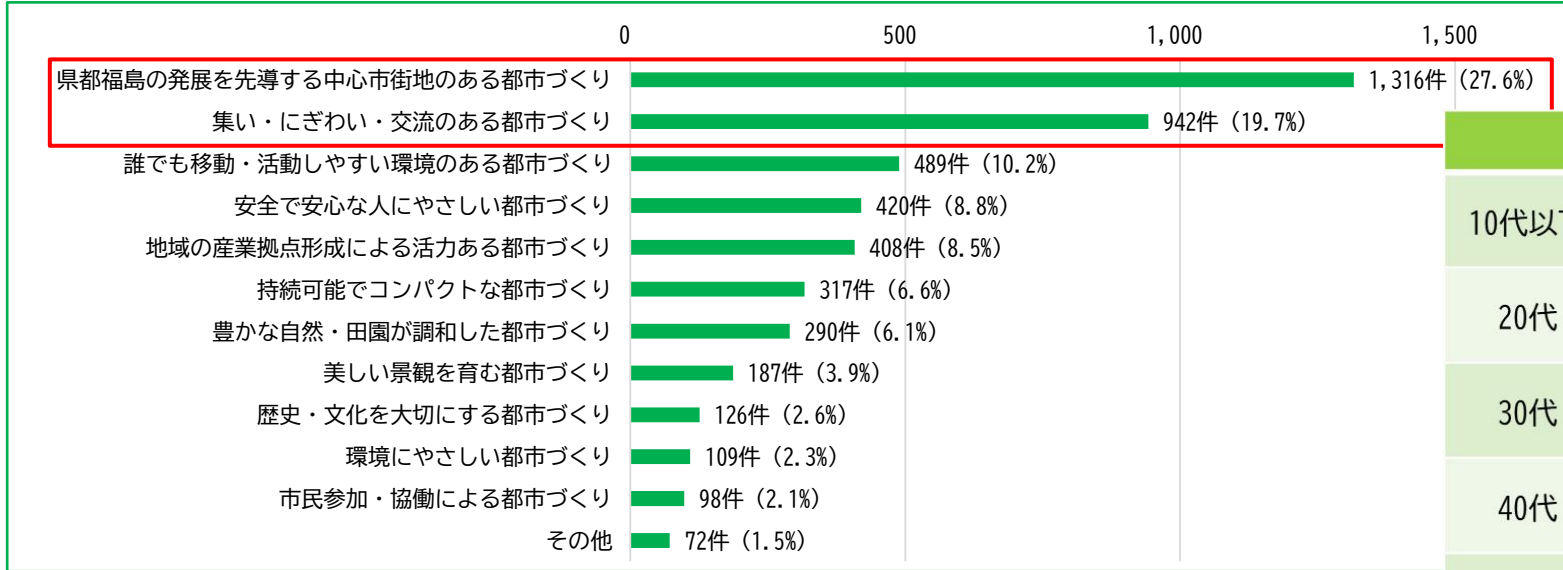


	1位	2位	3位
10代以下	中心市街地が活性化されていない	良好な住環境が整備されていない	※回答なし
20代	中心市街地が活性化されていない	適切な土地利用が図られずコンパクトなまちづくりが進んでいない	産業が衰退した
30代	中心市街地が活性化されていない	産業が衰退した	適切な土地利用が図られずコンパクトなまちづくりが進んでいない
40代	中心市街地が活性化されていない	産業が衰退した	適切な土地利用が図られずコンパクトなまちづくりが進んでいない
50代	中心市街地が活性化されていない	産業が衰退した	公共交通が充実していない
60代	中心市街地が活性化されていない	産業が衰退した	適切な土地利用が図られずコンパクトなまちづくりが進んでいない
70代	中心市街地が活性化されていない	産業が衰退した	適切な土地利用が図られずコンパクトなまちづくりが進んでいない

# [LINE]問8 将来の福島市のまちづくりで重要なもの

●「県都福島の発展を先導する中心市街地のある都市づくり」や「集い・にぎわい・交流のある都市づくり」を挙げた回答が全世代で多くなっている。この回答は、中心市街地がより活性化することで賑わいや交流が生まれてくることを期待する声が多いものと思われる。

## ■まちづくりで重要なもの(該当するもの2つ)



	1位	2位	3位
10代以下	誰でも移動・活動しやすい環境のある都市づくり	県都福島の発展を先導する中心市街地のある都市づくり	持続可能でコンパクトな都市づくり
20代	県都福島の発展を先導する中心市街地のある都市づくり	集い・にぎわい・交流のある都市づくり	安全で安心な人にやさしい都市づくり
30代	県都福島の発展を先導する中心市街地のある都市づくり	集い・にぎわい・交流のある都市づくり	誰でも移動・活動しやすい環境のある都市づくり
40代	県都福島の発展を先導する中心市街地のある都市づくり	集い・にぎわい・交流のある都市づくり	誰でも移動・活動しやすい環境のある都市づくり
50代	県都福島の発展を先導する中心市街地のある都市づくり	集い・にぎわい・交流のある都市づくり	誰でも移動・活動しやすい環境のある都市づくり
60代	県都福島の発展を先導する中心市街地のある都市づくり	集い・にぎわい・交流のある都市づくり	誰でも移動・活動しやすい環境のある都市づくり
70代	県都福島の発展を先導する中心市街地のある都市づくり	集い・にぎわい・交流のある都市づくり	安全で安心な人にやさしい都市づくり

# [LINE]自由意見

- 総回答者の半数以上から、多種多様な範囲にわたった回答を得た。
- 特に意見が多かったのは、福島駅周辺及び中心市街地に関する項目で、市民の関心が非常に高いことが伺える。また、分類上、他項目に分類した回答でも中心市街地に関連・起因するものが多かった。

## ■福島市のまちづくりに関する意見(自由記入)

項目	件数	内容
福島駅前活性化	195件	・商業施設誘致（スーパー、デパート、ショッピングモール、専門店など） ・再開発（東口、西口、駅ビル、東西連絡通路など） ・賑わい創出（イベント開催、魅力向上など）
中心市街地活性化	93件	商業施設、イベント、魅力向上、空き店舗対策など
子育て支援・環境整備	75件	保育園、遊び場、公園、教育環境、子育て支援策など
買物環境の充実	73件	デパート、スーパー、専門店、品ぞろえ、価格など
公共交通の充実	53件	バス、電車、運賃、運行時間、利便性など
文化・娯楽施設の充実	50件	コンサートホール、劇場、図書館、映画館など
景観保全・改善	34件	自然保護、緑地整備、景観を損なう開発への反対など
高齢者対策	27件	交通手段、買い物支援、福祉サービスなど
治安改善	17件	防犯対策、該当整備、犯罪抑止など
道路整備	16件	道路拡幅、歩道整備、交通渋滞対策など
その他	20件	ゴミ問題、行政への批判など

# 市民アンケートの総括

- 10年前と比べると、（LINE活用アンケート問5・問9）
  - 福島市全体の評価 より 居住している地区は良くなっている との評価
- 悪くなった要因（LINE活用アンケート問7）
  - 中心市街地の衰退 が全世代で多い
  - 満足度が低く、重要度が高い要素（市民アンケート問5）
    - ・ 福島駅周辺を中心とした集客拠点の強化
    - ・ まちの活性化に必要な機能の整備
- 愛着やほこりを感じる場所、大切にしたい風景（市民アンケート問7、LINE活用アンケート問13）
  - ・ 自然景観（信夫山や吾妻山など）
  - ・ 自然あふれる公園（大森城跡公園や桜づつみ公園など）
  - ・ 歴史・文化・伝統（お祭りや神社など）

自由意見でも記述が多い

見直しにあたって

# 福島市が目指す都市像

福島市が目指す都市のかたちとして、**福島型コンパクト+ネットワーク**を目指すこととする。

- ・ 中心市街地は、**都市中枢圏**として高次都市機能<sup>※1</sup>を集め、全市的あるいは広域的な拠点とする。
- ・ 中心市街地の隣接地域は、**広域商業拠点**<sup>※2</sup>として周辺部の商業拠点とするとともに、その他の人口集積地では、小中学校などを中心とした**日常生活圏**<sup>※3</sup>を形成し、循環バスや乗合タクシーなど域内交通を充実させることなどにより、マイカーのない人も日常生活を営めるようにする。
- ・ この日常生活圏の中心（日常生活拠点）と、都市中枢圏や広域商業拠点などを結ぶ、鉄道や路線バスなど広域公共交通のネットワークの機能を充実させる。
- ・ このような概念を市民共通の認識とし、その実現のための諸施策を講じることにより、各圏域などへの新たな投資を呼び込み地域の活性化を図るとともに、高コスト構造の都市からの転換・効率化に向けて漸進することにより、**人口減少・高齢化社会のなかで、市民全体の負担軽減と持続可能な福島市の形成**を目指す。

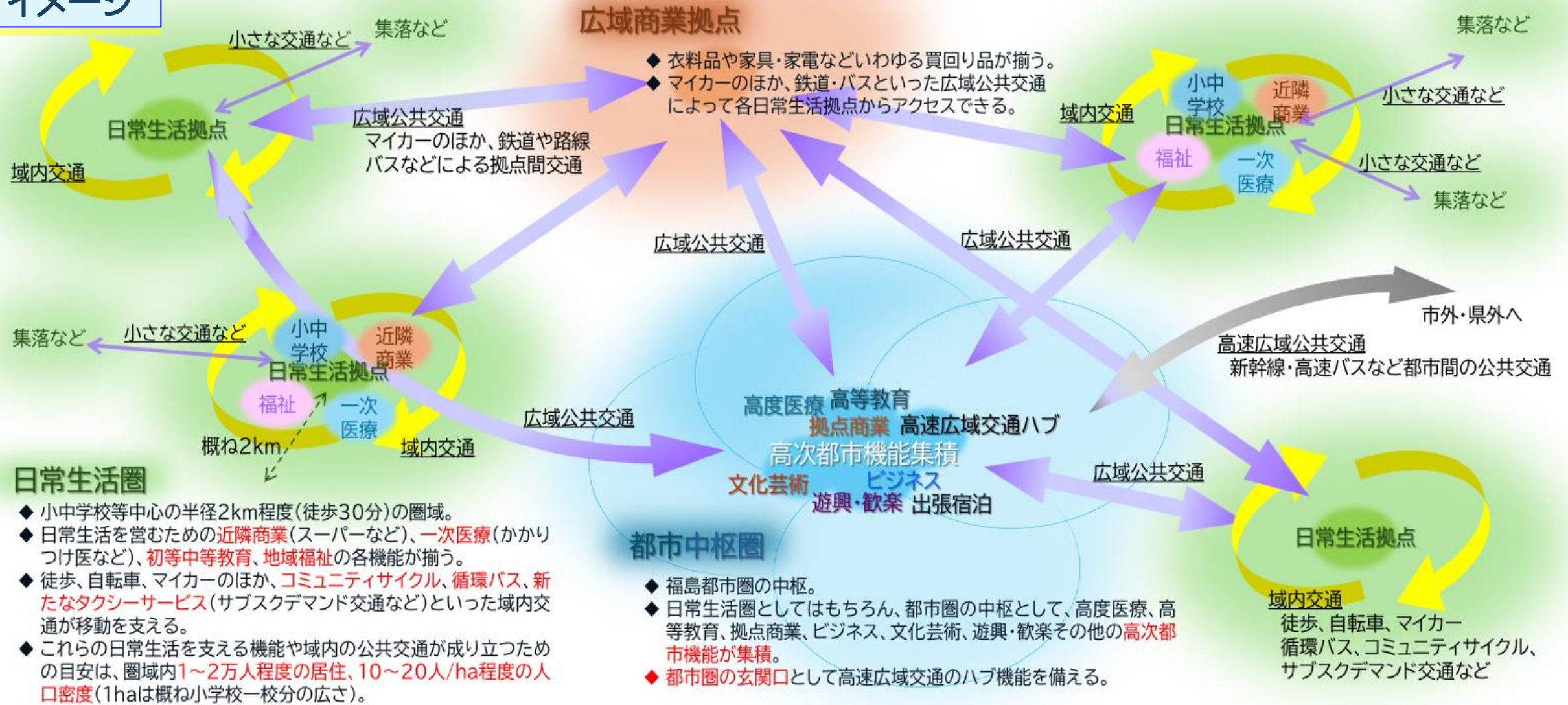
※1 高次都市機能：高度医療や高等教育、ビジネス、文化芸術、遊興・歓楽、高速広域交通ハブなど

※2 広域商業拠点：衣料品や家具家電などを揃えられる商業施設群

※3 日常生活圏：スーパー、病院、福祉施設など日常生活のための機能が揃う徒歩圏範囲の圏域

# 福島市が目指す都市像

## イメージ



# 見直しの進め方

見直しにあたっては、本市の現状と課題を整理したうえで、まちづくりの方向性を検討し、計画案について議論を進めていく。

## (1) 全体構想（都市づくりの方針）

「福島型コンパクト＋ネットワーク」を着実にすすめ、「県都ふくしま」として持続的な発展を目指すため、本市における課題を整理し、目指すべき都市像を示す。

そのうえで、これに対応した土地利用や公共交通などの交通ネットワークのほか、自然環境保全、景観形成、防災まちづくり等のまちづくりに関する方針を示す。

## (2) 地域別構想（地域別まちづくりの方針）

全体構想（都市づくりの方針）を踏まえながら、「共創」の理念のもと、市内18地区においてそれぞれ策定した「ふくしま共創のまちづくり計画」と連携・整合を図り、支所単位の地区において、地域の特性を活かした土地利用、道路・交通等のまちづくり方針を示す。

# 今後のスケジュール（案）

※市総合計画策定の進捗に応じて適宜調整・対応する。

